

# 学体連会報

発行日 平成 15 年 7 月 1 日  
 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号  
 国立オリンピック記念青少年総合センター内  
 財団法人 日本学校体育研究連合会  
 電 話 (03) 3465-3954  
 F A X (03) 3465-7464  
 発 行 者 浅 田 隆 夫

## 第41回 北海道大会余話

—50周年記念行事を終えて—

会 長 浅 田 隆 夫



I 全国大会の開催地が、現行の東・中・西の順に、しかも5年前に決定されるようになったのは平成7年からで、これに全国先駆けて名乗りを挙げて頂いたのは北海道（山越正敏会長）でした。私は山越会長の前任者であった石原金治・金井孝会長とも早くから昵懇にして頂いていたし、周年の節目がちょうど同14年度に当たっていたので、記念行事も北海道大会時に、また、この機に念願の幼稚園部会の旗揚げもしたいと考えていました。

II 私は本会の理事就任以来、機会あるごとに幼稚園部会の必要性について説き、教育改革の原点は幼児教育にあることを訴えて参りました。幸い、昭和54年の第18回東京大会から毎年幼稚園部会は開かれるようになったし、東京で実施する実技研修会の幼稚園部門も同58年から継続して行われるようになりました。また、これらの行事を支援するため、私は私立幼稚園の園長や公立幼稚園の主任、幼児の運動遊びに関心をもつ大学の先生方を集めて研究会を毎月開いてもいましたから、毎年夏開催されるさきの研修会には、これらの人たちが中心になって運営に当たっていました。しかし、全国大会時の幼稚園部会にせよ、さきの実技研修会にせよ、その実施を機会に組織や活動が発展・拡充することはありませんでした。このため各地区の実態調査も何回か試みてきました。

III 幸い、渡辺昌平氏（教育シューズ振興会会長）は、このような状況を察知され、その一助にもと幼児用の靴の開発に取り組んで頂くことになりました。また早くも平成9年には宮本靖彦氏（教育シューズ振興会理事長）は、学校用品関係の会社とも連絡をとりながら販路の開拓に奔走、その途次東京でお会いする時は各地の状況を伺ったりしていました。氏のレポートづくりは北は北海道か

ら南は沖縄まで及び、これが禍したのか突如平成13年5月と10月、脳梗塞で斃られ静養、このため北海道大会ではお会いすることができませんでした。宮本氏と同10年6月、山手線の代々木駅でお会いした時は、「大会当日には特注の記念袋の中に必要な資料や用品を入れて…」などと話されていたことが思い出されます。待望の幼児用の靴は何回かの試作を経て同14年初頭には「教育バレー®DX」として市販されるようになりました。もちろん、これはひとえに渡辺昌平会長の英断によるもので、また氏の人柄と他に比肩すべくもない営利を度外視して生まれた「実業」の製品でもあります。それだけに、幼稚園部会の立ち上げの一助になればと願っています。

IV 私は、全国大会ではいつも第1（幼稚園）分科会に参加して主催者としてお礼を申しあげることになっていますので、北海道でも札幌市立ひがしなえぼ幼稚園（今井紀恵園長）にお邪魔しました。当園では「生き生きと活動する子どもを育てる」ことを目標に、13名の全教職員がそのモデルとなって率先垂範されており、今井先生のリーダーシップが園全体に浸透していることを肌で感じました。仄聞するところによれば、先生は「幼児教育ほどやりがいのある仕事はない」と自ら希望され、2年前小学校から当園に着任されたとか。また後刻、耳にしたのですが、今井先生のご主人はこの研究集会の直後亡くなられたとのこと、当日、先生の毅然とした清楚な姿を思い出すとなおのこと感謝の辞に窮するほどです。

（注）私は、何った幼稚園や小学校には、毎年、そのしるしとして、一輪車（20台）を寄贈することになっています。一輪車にこだわる所以は、「私の一輪車物語」などとして機会を得て述べたいとも考えています。

## 学習指導要領の改訂と体育・保健体育科における教育改革

—評価と目的・方法との関係—

東京女子体育大学教授 本村 清人

(前文部科学省スポーツ・青少年局体育官)



### 1 改訂のポイント

今回の改訂は、完全学校週5日制の下、生徒に豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を図ることを基本的なねらいとして行われたものである。このため、各教科等の目標を見直すとともに、その目標を実現するために教育内容を厳選し、基礎的・基本的な内容を示している。つまり、教育内容の厳選と基礎・基本の徹底である。

体育・保健体育においては、多様な体育活動を通して体だけではなく心にも迫る体育をめざすことから、「心と体を一体としてとらえ」、①積極的に運動に親しむ資質や能力の育成、②健康の保持増進のための実践力の育成、③体力の向上の3つを具体的な目標として掲げるとともに、これらは相互に密接に関連していることを強調している。この目標を実現するために、新たに必修の内容として心にも迫る「体ほぐしの運動」が加わったこと、「スポーツ」「ダンス」については発達段階や児童生徒の能力・適性等に応じていっそう選択して履修し、運動に親しむ資質や能力を育成することができるよう運動の取り上げ方が弾力化されたこと、各運動領域の内容が①「技能の内容」、②「態度の内容」、③「学び方」の3本柱で構成されたことなどが大きな改善のポイントである。

体育・保健体育の固有の目標、その固有の目標を実現するための基礎・基本は、体育の場合、各運動領域ごとに示された「技能」「態度」「学び方」の3つの内容だということである。もとより中・高校においては、体育に関する理論も含む。要は「学び方」が体育の基礎・基本の1つになったということであり、体育活動を通した「生きる力」の育成ということである。

### 2 体育の指導と評価

先に述べたように、教育内容の厳選と基礎・基本の徹底がこれからの指導と評価の原点である。基礎・基本を確実に身につけさせ、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」(「確かな学力」)をはぐくんでいくためには、個に応じた指導の充実を図るとともに、一人ひとりの学習状況を適切に評価し、指導に生かしていくことが重要である。

その意味で、今回、学習指導要領に示す目標に照らして学年・学級における位置づけを評価(絶対評価を加味した相対評価)していた評定についても、学習指導要領に示す目標に準拠した評価(いわゆる

絶対評価)に改めたことは時宜を得たものといえる。

そのためには、各学校における評価の根拠が今まで以上に明確で信頼でき、保護者等にも説明できる客観的なものであることが大切となる。適切な評価規準の作成である。

しかし、評価規準の作成と改善が喫緊の課題ではあるが、それ以上に大切なことは、体育の年間計画に即した各学年ごとの各単元の指導計画の作成である。各学年の各単元計画を作成せずして、評価規準の作成はあり得ない。例えば、単元の目標を、①技能の内容、②態度の内容、③学び方の内容の3つの柱で立てる。その単元の目標を実現するための学習内容をどのように展開していくか、学習の道筋(学習過程)を明確にする。その上で、学習の道筋に即した評価規準を国等が示したそれを参考にして書き込んでいく。この手順をとれば、評価規準が指導に生きるものとなるだけでなく、指導があつての評価活動ということが明確に認識できる。指導と評価の一体化である。

評価規準を作成するにあたっては、精選することが必要である。そのためには、各評価の観点ごとに視点を持つとよい。例えば、「関心・意欲・態度」では、運動の楽しさ体験、公正・協力などの社会的態度、健康安全にかかわる態度。「思考・判断」では、自己の運動課題を持つ、課題を解決するための内容と方法を定める、自己の学習活動を振り返る。「技能」では、ねらい1で今持っている技能をゲームに生かすことができる、ねらい2で新しく身につけた技能をゲームに生かすことができる、技能や記録が向上した。「知識・理解」では、ねらいと特性、技術構造、審判法とルールなど。

なお、評価・評定をするにあたって各観点ごとに重みづけをするという考え方もあるが、私は基本的にその必要はないと考える。なぜならば、平成4年の指導要領の改訂の折、知識偏重、技能偏重の弊害を改善するということから「新しい学力観」が提示され、先の4つの評価の観点で学習状況を評価することになったからである。しかも、4つの評価の観点は相互に密接に関連し合っているからである。

いずれにせよ大切なことは、教師の適切な指導の下、児童生徒自ら主体的な学習活動と振り返りを行うことによって、運動の特性に触れて得られる運動の楽しさ・喜びを味わうことができるようにすることである。

## 教育評価をめざして

福島大学教育学部教授(附属小学校校長) 森 知高

文部科学省から、平成13年4月に「小学校児童指導要領、中学校生徒指導要領等の改善等について」が通知された。これは、先の小学校および中学校の学習指導要領の改訂に伴う教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施把握状況の評価の在り方について」(平成12年12月)を受けるものである。そこでは、基礎・基本を確実に身につけさせることはもとより、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、問題を解決する資質や能力などの「生きる力」が育まれているかをとらえることができる評価の工夫の必要を求めている。これが現在、学校教育現場で対応をせまられている(常に、「いわゆる絶対評価」という修飾語が付されている)「目標に準拠した評価」への転換の契機である。

平成12年の答申では、これからの評価の基本的な考え方が述べられ、学習指導要領が示す基礎・基本の確かな習得を評価するため、あるいは児童一人ひとりの進歩の状況や教科の目標の実現状況を把握し学習指導の改善に生かすためには「目標に準拠した評価」が優れていると結論づけている。

確かに、「目標に準拠した評価」は、これまでの「集団に準拠した評価」(これは「相対評価」と称されている)の考え方では見過ごされることが多かった目標を実現してこなかった子ども、あるいは実現したが評価されなかった子どもに焦点をあてることに貢献し、学習指導の改善に利する。ただし、この貢献を実現するためには何点かの条件が必要になってこよう。今回はその中の2点について論述してみた。

### 1 目標の設定について

「目標に準拠した評価」である以上、目標が問われなければならない。その際、気になるのが、いつも付帯してくる「いわゆる絶対評価」という用語である。これまで使われてきた相対という用語の反語

としてある絶対と解釈することもできるが、目標が絶対的なものともとられかねない。また、教師からの一方的なトップダウン形式のものともとられかねない。この評価がいわゆる観点別でなされるなら、それらは「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」の面からとらえられる。いったい絶対的な「関心・意欲・態度」「思考・判断」を設定することができるのだろうか。また、どの数値をもって絶対的「技能」とするのであるか。絶対は学習者の位置づけを純粋に、定めた目標との比較で行うということである。付言すれば、「集団に準拠した評価」も目標との比較で行われているはずであり、その結果を集団の中で序列化しているのである。評価は、目標—内容—方法—評価の関連の中でしか位置づかない。これまでは「集団に準拠した評価」を行ってきたといっても、われわれはいまでも目標を定めていたはずである。すなわち今回の改革は、目標の定め方を問うているといってもよい。学校が、教員が、説明責任を負いながら実現可能な目標—内容—方法の構築と提示を問われているのである。

その時、一部でいわれているように、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」を方向目標と達成目標にとらえなおしてみることもできる。達成目標は「十分満足できる」「おおむね満足できる」「努力をようする」と判断されよう。方向目標は「その方向にある」「ない」と判断されよう。

### 2 評価の取り扱い

上述してきたような目標—内容—方法とかわる評価であれば、それを子どもたちは自分を伸ばすために利用(学習評価)でき、教師は自分の授業を改善するために利用(授業評価)できる。これこそが教育評価であろう。学期が終わった、評価が終わった、ではなく、ここから始まるのである。

## 教科体育(小学校)における指導と評価

—評価活動、総括、評定の客観化と簡便化をめざす評価方法を求めて—

常務理事(荒川区立ひぐらし小学校校長)

後藤 一彦



### はじめに

「観点別評価」も「評定」もすべて「目標に準拠した評価」(いわゆる絶対評価)となった現在、各学校の評価の課題の第一歩は、「単元ごとの評価規準」の作成かと思えます。しかし、評価の主旨は、「学力保障」と「学習状況の表現」にあり、これに伴って「教師の指導法の改善」や「学校の説明責任」が求められています。

そこで、各学校は第二の課題として、学力の保障の機能を担う学習中の「評価活動」と、学習成果の状況を表現する「観点別評価の総括」や「評定」を客観的かつ簡便に行うための評価方法の工夫に取り組みつつあると思います。その具体的方法については、すでに国立教育政策研究所教育課程研究センターなどから参考資料が示されていますが、本稿では客観化と簡便化を図る評価方法をめざすことを趣旨に、その留意点について考えてみました。

#### 1 評価は「目標の明確化」からはじめる

学力を保障するためには、まず、その「単元のねらい」が明確でなければなりません。

そのため、この運動は、「技を達成することが特性となる運動である」とか「チームの作戦をめぐって学習が深まる運動である」などのように「運動の特性」を明確にする必要があります。この特性吟味が十分でないと、次に評価規準を作成する段階で、各領域の評価規準が似通ったものになり、結果として規準の明確性を欠くこととなります。

そこで、他の運動と比較・対照しながら特性を明確にし、その特性にふれる「単元のねらい」や「学習の道すじ」を設定することが大切と考えます。

#### 2 「評価規準の設定」は「B」の状況を基盤に

観点別学習状況の評価は、周知のようにA、B、Cの3段階により行われますが、判断の拠り所とする「評価規準」は、3段階に設定するよりも「Bの状況」を基盤として設定し、AとCは、Bとの関連で捉えるようにします。すなわちAとは、Bの状況がさらに質的な深まりや広がりを実現した状況とし、Cとは、Bを満足していない状況とします。こ

のようにBのイメージを膨らませ、子どもの学びの姿として連続的に捉えると、A、B、Cを固定的ではなく発展的に捉えるようになるとともに、AやCの段階を敢えて文言で設定する必要性も希薄化し、評価規準設定作業の簡便化にもつながると思えます。

#### 3 「評価活動」と「総括や評定」の峻別を

学力保障の機能を担う学習中の「評価活動」と、学習状況を表現するための「観点別評価の総括」や「評定への総括」とは、機能が異なるだけに評価の具体場面や方法も異なります。この点を明確に峻別して取り扱うようにしないと、評価の手続きは複雑化して効率が落ち、機能が果たせなくなります。

そこで「評価活動」は、評価規準をさらに具体化した「学習活動における具体的評価規準」を設定し、それを上記1で述べた「学習の道すじ」に即して、いつ、どんな観点で評価するかを評価計画に位置づけ、指導的評価として行います。この時、Cの子どもに適切な支援を行い、Bの子どもにはAに方向づけた示唆を与えることこそ評価活動の本命です。

上記「具体的評価規準」のうち、単元の目標に直結するものを精選して単元の後半に位置づけて評価し、単元終了後などに総括し学習状況を端的に表現するのが「観点別学習の評価」や「評定」です。

#### 4 「総括」や「評定」の点数化の課題

上記3に述べた「観点別学習の評価」や「評定」への総括の方法例として、「学習活動における具体的評価規準」の評価結果や、「観点別評価」の結果：A、B、Cを点数化する場合があります。

点数化した結果を総括し、最終評定のA、B、Cを判断する「ものさし」が「評価規準」です。これは、各学校で定めるべきことですが、達成率が83%をA、50%未満をCとする例などが示されています。点数化は、数値のもつ意味を正しく理解して行えば処理を容易にする有効な方法の1つです。

しかし、上記2に述べたBを核とした連続的で精度の高い「学びの姿」に照らして総括や評定を行うことも、有効な方法であることを申し添えます。

## 教科体育(中学校)における指導と評価の一体化

常務理事(板橋区立志村第二中学校校長)

佐山 義昭



### はじめに

中学校においては、目標に準拠した評価による評価活動が実施され、改めて教師の指導力がいっそう問われています。特に指導と評価の一体化を図るためには、指導のねらいに基づく適切な評価規準によって、生徒の学びの姿を具体的にとらえることが重視されています。

そこで、平成14年度「東京の教育21」研究開発委員会中学校保健体育部会の資料作成に関わった者として、その概要をここに紹介します。

#### 1 研究主題

「内容のまとまりごとの評価規準及び評価方法等の研究開発」

#### 2 研究の概要

本研究開発においては「生きる力」を育むための評価方法の工夫・改善をめざし、体育分野の各領域の評価規準をより具体化するとともに、その評価規準に基づいて「生徒の学習の実現状況」の具体例を示し、評価規準に即した生徒の学びの姿を明らかにした。

また、指導・評価計画例に各観点別の評価規準を重点化して位置づけ、指導・評価計画例に基づいて評価した生徒への指導事例を示すなど、指導と評価の一体化のあり方を追求した。

#### 3 研究の内容

評価方法の工夫・改善をめざして、次の3点を中心に指導資料を作成した。

(1) 内容のまとまり(体育分野)ごとの評価規準例の作成

国立教育政策研究所教育課程研究センターから示された体育分野各領域の「おおむね満足できる状況」にある観点別学習状況の評価および平成13年度「東京の教育21」研究開発委員会保健体育部会指導資料にある目標に準拠した評価規準の視点を参考に、学習指導要領にある技能・態度・学び方の内容に照らして、より重点化した評価規準例を作成した。

(2) 「生徒の学習の実現状況」の具体例の作成

生徒の学習活動において「おおむね満足できる状況」の評価規準に照らして、生徒の学びの姿を適切に見取るための具体例(「生徒の学習の実現状況」の具体例)を作成した。

(3) 評価後の指導事例の作成

評価規準および「生徒の学習の実現状況」の具体例を明示した指導・評価(単元)計画を作成し、その計画に基づいて評価した生徒への指導事例を示した。

4 評価規準および「生徒の学習の実現状況」の具体例作成の基本的な考え方

(1) 学習指導要領の内容と評価の観点との主な関連  
観点別学習状況の評価の4観点と学習指導要領にある内容において、関連の深いものを結びつけて、評価規準例および「生徒の学習の実現状況」の具体例を作成した。

(2) 観点別学習状況の評価の4観点における「十分満足できる状況」(A)、「おおむね満足できる状況」(B)、「努力を要する状況」(C)の評価規準の考え方の例

4観点の3段階評価における生徒の学びの姿をとらえ、「生徒の学習の実現状況」の具体例を作成した。

(3) 指導と評価の一体化

評価規準に基づく教師の評価は、指導することに對する評価であり、評価した後、生徒への指導・支援を行うとともに、自己の指導の改善・見直しを図り、次の指導に生かすことが重要である。本研究では、評価した後の生徒への指導事例を作成し、指導と評価の一体化の一例を示した。

#### 5 研究のまとめ

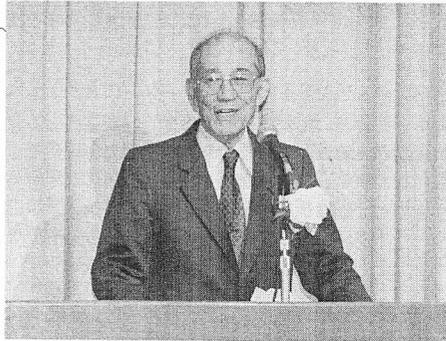
保健体育科において「生きる力」を育むためには、体育・保健学習を通して、課題を発見する能力や課題を解決する力などの育成が求められている。また、同時に指導と評価の一体化の重要性が示されている。このようなことから目標と照らしてその実現状況を見る評価(いわゆる絶対評価)の充実に向けて、より指導のねらいを明確にした評価規準の改善・見直しが必要である。また、指導と評価の一体化をより図るためには、指導・評価計画や評価方法をさらに工夫・改善し、より教師の指導へ反映することのできる具体的な方法を開発するとともに、生徒の自己評価および教師の見取りによる関心・意欲・態度、思考・判断などの評価に効果的に活用できる学習カードの研究開発は今後の課題である。

# 50周年記念式典

平成14年10月16日(水) 北海道 京王プラザホテル札幌

## あいさつ

勲日本学校体育研究連合会会長  
浅田 隆夫



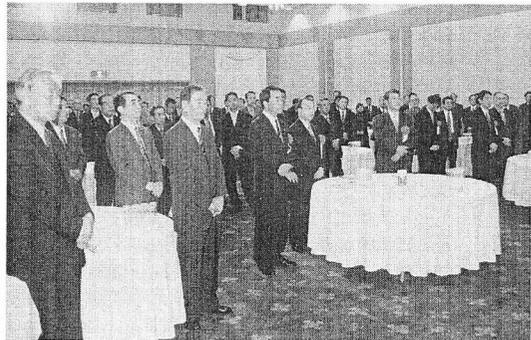
本連合会の50周年記念式典を行うにあたり、全国各地からご参集いただきまして誠にありがとうございました。

50年と申しますのは、本連合会の前身である日本体育指導者連盟が財団として認可されてからということでもあります。この間、5人の会長をはじめ、これを支えていただいた中央・地方の役員、会員関係各位のご尽力により、諸事業と組織の拡大が図られてまいりました。そして今日、その恩恵を私どもが浴していることを思う時、これらの先人の業績に改めて深い敬意と感謝を捧げるものであります。

いま、私どもは、この遺産のうえに種々の事業を行うと共に、都道府県の方々の努力により年を追って組織の充実も図られてまいりました。これらの諸事業の歩みは、50年誌に掲載させていただきました。また、本日の式典で、物心両面のご支援を賜りました長年の賛助会員112名の方々に感謝状を贈り、感謝の意を表すと共に、私どもは本連合会の創設の精神を偲び、その成果の普及を通

じて本会の存在を世に問うべく努力しなければならないと考えています。

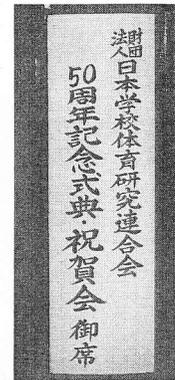
思うに、21世紀の体育・スポーツは、人間の一生を通じてその生存に関わる大きな問題となり、その基礎となる学校体育の役割はますます重要となりました。私どもはこの重要性を認識する時、忸怩たるものがあり、また、その指導性を発揮しているか否かを自省する時、微力を恥ずる次第であります。今後、私どもはこのような視点に立ち、内外の現実を洞察し、新たな学校体育のあり方を求めて努力すべく決意を新たにします。ここに、この記念すべき50年を会員、関係各位と喜びを分かち合い、団結を深め、友好団体と手を携えて共に前進すべく、いっそうの協力をお願いして、ごあいさつといたします。



平成14年10月16日(水)、全国学校体育研究大会(北海道大会)の前日、札幌市・京王プラザホテル札幌エミナスホールにて、50周年記念式典・祝賀会が開催された。

当日は、全国各地より160余名の参加を得、各方面より多数のご祝辞をいただいた。また、これまで長年にわたって財団を支えてきた特別賛助会員各社に感謝状の贈呈が行われた。

ここでは、当日の写真と共に、式典・祝賀会の模様を報告する。



▲会長あいさつ

▼式典風景



## 祝 辞

文部科学省スポーツ・青少年局、スポーツ・青少年総括官  
徳重 眞光

財団法人日本学校体育研究連合会の50周年の式典・祝賀会おめでとうございます。これまで種々の研究調査活動、あるいは学校体育指導者の資質向上のためのさまざまな事業をやってこられました。日本の学校体育の充実・振興のために大きな役割を果たしてこられました。これまでの成果のおかげで、多くの国民がさまざまなスポーツに親しむ、そういう基盤を作っていただいたと思っております。また、体力の向上にもいろいろな形で役立っていただいたと思っております。

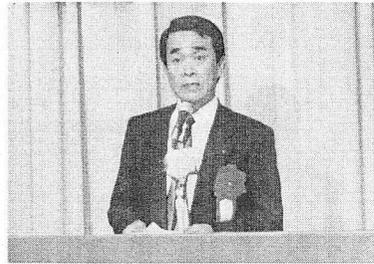
ご案内のとおり、今子どもたちの体力が非常に落ちております。先だって中央教育審議会の答申が出されたところでございますが、その中でも、長期的に体力の低下があるということで、いろいろな対応策の提言をいただいております。学力が落ちてきているということに対しては国民みんなが心配をするのですが、体力が落ちてきているということにはあまり関心がありません。しかしながら、先だって、学者の方をお訪ねしましたが、研究をするためにも体力はどうしても必要だとおっしゃるわけです。そういった意味で、中教審の答申をいただいて、体力の向上のために、いろいろな施策を打っていきたいと思っております。

ただ、一方で、審議会での議論の中でも、生きていくための必要最小限の体力でいいのではない



かとおっしゃる先生もいらっしゃったわけです。先だって、体力・運動能力の調査の報告を出しましたところ、このままいってしまうと、日本人は空想上の宇宙人のような体型になってしまう、オリンピックにも参加すらできなくなるだろうと思っております。スポーツを通じて、汗を流して、自分が生きていること・健康であることを実感し、友達と人間関係を結んでいく、それが生きていくうえで非常に大切であると思っております。

先生方、これまでの実績を基盤として、ぜひ引き続き、子どもたちのスポーツ、それから体力の向上のために、ご支援を賜れば幸いです。50周年にあたりまして、これまでの皆様方の輝かしい実績に対して改めて敬意を表しますとともに、今後ますます会が発展し、また、日本の学校体育の充実と、さらには子どもたちの体力が向上しますことを祈念をいたして、お祝いの言葉とさせていただきます。明日からの会議もいろいろ課題が多いと思っておりますが、どうぞよろしく願いいたします。



## 祝 辞

北海道教育庁生涯学習部部長  
横山 武彦

育や保健体育の授業におきましては、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を培うとともに、体力の向上を図るため創意工夫を凝らした学習活動を展開することが重要であります。

連合会におかれましては、今後ともこれらの課題を含め、より広い視野から研究実践を深められ、さらなるご貢献をいただけるものとご期待している次第であり、また、今後の学校体育の充実のためにも引き続きお力添えをお願いする次第であります。

終わりになりますが、浅田会長をはじめ、関係者の皆様のご健勝と連合会のますますのご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

財団法人日本学校体育研究連合会におかれましては、創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また、連合会におかれては創立以来、一貫して時代を担う子どもたちのための学校体育のあり方を研究され、全国学校体育研究大会の開催をはじめとして、その時々の課題に適切に対応した実践を積み重ねられてこられました。これまでさまざまなご苦労がおりと存じますが、これまでのご尽力に対し、深く敬意を表すとともに、感謝を申し上げます。

さて、今日学校教育においては、各学校が特色ある教育活動を展開し、子どもたちに生きる力を身につけさせることが求められております。特に学校体育においてはたくましく生きる健康や体力を身につけさせることはもとより、運動の楽しさを味わいながら、仲間とのふれあいをとおして、豊かな人間性を育成することなどが期待されております。そのためにも、学校体育の中心である体

式典・祝賀会の  
司会を務めた  
深川長郎・本会  
副会長



## 式典までの経緯

創立50周年記念式典・祝賀会に至るまでの経緯は、以下のとおりである。

周年記念事業の構想が出されたのは、平成8年3月の常務理事会にさかのぼり、同年5月に行われた平成8年度第1回理事・評議員会の席上、浅田隆夫会長が周年行事について「…学体連が今まで積み上げてきた内容を遺産として残したい。そのためにはどういった事例をどのように選別・整理し、どんな形にするのか、経費はどれぐらい必要かについて検討していきたい。」と述べている。同年6月、新役員による第803回常務理事会で会長提案により、特別委員会の中に「将来構想・企画（含・40周年記念事業）特別委員会」が設置され、当初は40周年記念事業として業務分担の内容に入った。同年8月、第805回常務理事会で、記念式典について（功労者

表彰・学体連旗の配布・記念品等）協議された。同年10月、第35回全国大会（秋田）時に合わせて行われた平成8年度第2回理事・評議員及び代表者会議では、平成8年度収支予算案が審議され周年記念事業への引当金が了承され、その後平成14年度までの間、特別会計に計上し積み立てを行ってきた。

平成9年2月、第811回常務理事会で、平成9年度事業日程に関連して記念品・表彰、募金活動について協議した。

平成10年6月、役員改選後の第1003回常務理事会で「40周年記念事業特別委員会」に改称され、同年8月、第1005回常務理事会で同特別委員会から記念誌と合わせて企画案が提案され、式典（感謝状目録贈呈、支部旗の寄付）、行事（記念講演のルポ、レセプション）、特別賛助会員（寄付集め）等が協議

## 祝 辞

札幌市教育委員会教育次長  
本間 英昭



日本学校体育研究連合会が創立50周年を迎えられましたことをお祝い申し上げますとともに、ご参加いただきました皆様を心から歓迎申し上げます。ようこそ札幌へおいで下さいました。北の都・札幌市は人口185万人を抱え、東京、横浜、大阪、名古屋に次ぐわが国第5の都市にまで発展してまいりました。今回本会と時を同じくして、第6回障害者国際ナショナル世界会議がここ札幌市において開催されており、世界から大勢の方々が集まって、障害のある人も障害のない人も、住みよい社会にするための熱心な討議が繰り広げられております。（…中略…）4年に1度開催される障害者国際ナショナル世界会議と平成2年から12年ぶりに行われる全国学校体育研究大会、ならびに本会の創立50周年とが、ここ札幌市で同じ健康観のうえに立ち、同時に開催されますことは、誠に意義深く、健康都市札幌の面目躍如と言えるのではないかと自負をしているところであります。

さて、札幌市では教育推進目標の中の1番目に、開拓の心を生かし、自ら学び高め合い、すこやかな心身をたくむとたい、21世紀を生き抜く力を持った児童・生徒の健康と体力を育成してまいりたいと願っております。しかしながら、ご承知のように、児童・生徒の体力は、低下傾向にあり、学校の朝会の時に倒れる子ども、机に突っ伏すなど教室できちんと席に座っていることができない

子ども、常に疲労を訴える子どもなど、明らかに以前とは異なる子どもの状況が見られるとされており、札幌市といたしましても日常生活の中で運動に親しむ習慣を身につけさせたいものと、機会を捉えて、各学校に積極的に働きかけているところであります。

このような中で、明日から2日間にわたり、全国各地から大勢の先生方がお集まりになり、子どもたちの健康や体力を支える数々のすばらしい取り組みが発表されるとともに、真摯な議論がされると伺っており、その成果に大きな期待を寄せているところであります。

結びになりますが、日本学校体育研究連合会50周年記念式典にご参加をいただきました皆様と今回の準備にあたられました関係者の皆様のご労苦に敬意を表しますとともに、明日から始まる平成14年度全国学校体育研究協議会ならびに第41回全国学校体育研究大会の成功をご祈念申し上げ、お祝いのあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

された。同年11月、第37回全国大会（岡山）時に行われた平成10年度第2回理事・評議員及び代表者会議では、40周年記念誌作成とあわせて周年記念事業を盛大に行いたいと会長より提案があり、その協力依頼があった。

平成12年4月、第1201回常務理事会で、戦後日本の学校体育の中核を担っていた前身の財団法人日本体育指導者連盟（昭和25年設立）を含め、半世紀の歴史を後世に伝えるべき強い使命感から『50周年の歩み』を記したいとの提案が承認され、同年6月、役員改選後の第1203回常務理事会で「50周年記念事業特別委員会」に改称され、会長自ら陣頭指揮をとり、企画の再考が行われた。同年6月、第1204回常務理事会で50周年記念式典の日程について協議し、北海道大会前日の理事・評議員及び代表者会議終了後に式典を行うことが決定された。また、式典では表彰を行い、その後パーティーを行うこととした。

平成13年7月第1304回常務理事会、同年9月1305回常務理事会で、募金方法について協議を重ね、同年11月、第40回全国大会（宮崎）に合わせて行われた平成13年度第2回理事・評議員及び代表者会議では、学体連設立50周年記念行事について長森久副会長より記念式典、祝賀会、50周年記念誌の準備状況の報告があり、募金協力の依頼を行った。

同年12月第1307回常務理事会で、募金のあり方について協議し、同14年1月第1308回常務理事会で、募金の趣意書の具体的内容について協議した。

同年9月第1404回常務理事会で、記念式典・祝賀会のプログラムについて協議し、感謝状受賞者・招待者について決定した。同年10月第1405回常務理事会で、9月11日に行われた現地との打ち合わせ事項について協議し、式典・祝賀会式次第の決定のみ、創立50周年記念式典・祝賀会の準備が調えられた。（幹事・古川浩洋）

感 謝 状 贈 呈



設立以来、物心ともに財団への援助を賜った企業・計112社に、会長より感謝状が贈呈された。



感謝状受賞社代表あいさつ

児島株式会社代表取締役社長 山本 裕人

半世紀におよぶ創設50周年ということで、誠におめでとうございます。歴代の先生方、理事・評議員の皆様のためゆめ努力があったからこそと認識しております。私ども特別賛助会員のメンバー一人ひとり団結しまして、今後とも支援・サポートを続けさせていただきたいと思っております。感謝状まで賜りまして、本当にありがとうございました。

それでは、僭越ではございますが、乾杯の音頭をとらせていただきます。日本学校体育研究連合会50周年おめでとうございます。今後のますますのご発展と第41回北海道大会の成功を祈念いたしまして、乾杯！ありがとうございました。

感謝状贈呈企業 (順不同)

日新ゴム(株)	(株)牧野本店	(株)新日本教育シューズ	(株)ワキタスポーツ
協和(株)	(有)梅村悦三郎商店	教育シューズ山口県事業本部	(株)柳屋
(株)アスティコ	柴田(株)	(株)グリーンフジタ	(株)モリ商会
(株)金谷	山本被服(株)	(有)ハヤカワ運動具店	サトウススポーツ
(株)サーパス商事	(株)ラッキーえびな	教育シューズ長崎	(有)日比野スポーツ
日本教育コマース(株)	(有)小間井宏尚商店	(株)沖繩総合スポーツ	ヒラノスポーツ
東洋商事(株)	(株)クラブ商事	児島(株)	タバタスポーツひのきや
松助工業(株)	(株)サンワ	(株)山形さいとう	肥後スポーツ
(株)丸幸	シンエー(株)	(株)神谷商店	(有)マルクラススポーツ
教育シューズ山梨県事業本部	タカハシ靴販売(株)	双葉産業(株)	内藤ユニフォーム
ヤマグチ (中日乃靴)	(株)シューズ・アカデミック	(有)エビスヤ	(株)永水スポーツ
(株)中央創商	(株)富士商店	和信産業(株)	(株)滝口スポーツ服装
教育シューズ東海	(株)日下部商店	トラヤ商事(株)	(有)みずもとスポーツ
(株)丸大	(株)大塚ユニホーム	(株)さいとう商事部	日本整経(株)

乾 杯



児島(株)社長・山本氏の音頭による乾杯後、祝賀会。用意された北海道の地ビールやワインを片手に、和やかな雰囲気の中で、参加者同士の情報交換も活発に行われ、北海道大会に寄せる期待の大きさが伺われた。



▲祝賀会風景

閉 会 の 言 葉

(財)日本学校体育研究連合会副会長 金森 久



本日は、かくも多数の皆様方をお迎えいたしまして、財団法人日本学校体育研究連合会創立50周年の記念式典・祝賀会を催すことができました。文部科学省、北海道教育委員会、札幌市教育委員会のご来賓の皆様、ご多忙のところ、ご臨席を賜りましてありがとうございました。

私は正直申しまして、このように盛大に祝賀会が開催されるとは思っておりませんでした。感謝の気持ちでいっぱいでございます。これもご参会の皆様方のご協力の賜と厚く御礼を申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

感謝状贈呈企業 (順不同)

(株)スボルタ青森	ジェス(株)	太田運動具商組合	日本教育シューズ協議会
(株)サンラッキー	日本教育シューズ協議会	J E S 岐阜	山陰サンタ販売(株)
(株)安田	J E S 札幌	(有)梅村悦三郎商店	松川(株)
合同印刷(株)	古城商店	カツマタ	教育シューズ四国事業本部
NECインターチャネル(株)	(有)岩手教育シューズ	タカハシ靴販売(株)	(有)児島屋
(株)第一学習社	(株)橋文	(株)ワキタスポーツ	(有)児島屋
(株)ジェイティービー	高与弘進(株)	J E S 関西	(株)スコーレ
アイン(株)	(株)山形スポーツさいとう	スポーツモリヤマ	与田本店
(株)マルヒロ	J E S 福島	(株)岡忠	日本教育ヨシエイ(株)
ミリオン(株)	J E S 秋田	(株)前川太市商店	大分教育シューズ
学習研究社(株)	(株)イズミヤ	(株)ウチハタ	J E S 長崎
福山ゴム工業(株)	(有)マルク洋服店	J E S 兵庫	J E S 宮崎
アキレス(株)	(株)シューマートカナイ	フジ通商(有)	J E S 沖縄
(株)スカイインターナショナル	(株)ニッコー	(有)ジェス岡山	光多制服(株)

## 第41回全国学校体育研究大会

## 分科会報告

## 第1分科会 札幌市立ひがしなえぼ幼稚園

記録 札幌市立西宮の沢小学校教諭 高橋直之



研究主題 「心身ともに健やかな子供を育てるための、豊かな生活の創造」

## 1 研究発表

- (1) 発表者 ひがしなえぼ幼稚園教諭 曲木久仁子  
(2) 主題設定の理由

幼児の発達には、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていく。また、心が安定した状態では、環境を通して幼児の主體的な活動が促され、生きる力の基礎が育成されていくものである。

しかし、本園児の状況を見ると、社会の変化に伴う保護者の育児に対する意識の変化や不安から、幼児の心や体にも『生活リズムの問題』『経験不足の問題』『心の問題』などさまざまな問題が生じてきている。今一度幼児の健やかな成長を見直し、幼児が安定した心で生き生きと活動に取り組める豊かな経験をさせていくことが大切であると考えた。

幼児の遊びや生活は、総合的な学びに匹敵する。特に、はすむ心と体は幼児の姿そのものであり、遊びを通してのさまざまな体験と人とのかわり、生きる力の基礎を培うことになる。幼児の心や体の育ちを重視し、「心が体を動かす」「体験が心をはぐむ」ことを大切に、心身ともに健やかな子供の育成をめざすことが、次の成長の大きな力（生きる力）になると考え主題を設定した。

## (3) 研究の視点

子供が幼稚園ならではの生活の中で、さまざまな体験をするための環境や援助のあり方を探る。『身近な環境を生かす』『身近な人々とのかわり』『自然とのふれあい』『地域とのつながり』

## 2 研究協議

○日常的に連携して保育を行っている。子供たちのめざす姿として達成目標を持つのではなく、方向目標である。経験させておきたい1つのねらいにいくつもの方向がある。大きなねらいとして、いろいろな遊びに自分の考えを出して遊んでほしい。

○生活している子供のすべての動きが運動にかかわっているのではない。子供の活動欲求を教師がとらえ、動きを加えて、次の動きにつなげていく教材研究を進めてきた。子供が主体となり、自然にできるように言葉かけをしてきた。

○子供たちは身のこなし、防衛力などいろいろな力を身につけている。適切な教師のかかわりがあるからだ。

○幼児期には神経を発達させていくことが大事である。

○教師が試行錯誤している様子を見せてきた。

自分たちのやりたいことにすぐ取り組めるように用具の準備する、相手に伝える、相手の考えを聞くという様子を教師は見守ってきた。リレー遊びでは人数をそろえることの気づきが出てきた。新しい遊びへと発展させていた。これが子供の喜びにつながり、満足感や自信となっていた。

○子供は友達に刺激を受けてさらに動きをよくしていくと思うので、はげましの言葉、認めめの言葉を教師が多くかけると意欲化につながる。友達を認め、考えを出すこともつながっていくと思う。

○子供の発達にどんな環境が必要なのかよく考えられ、準備されていた。計画的な援助、環境がしっかりしている。遊具や自然木に巻きつけ、結わえられたロープが魅力的だった。

○多くの先生ですべての子供を見取っていたが、教師同士の打ち合わせや交流はどのように行っているのか。経験させたい遊びと子供がやりたいことのずれをどうつなげていくのか。体力、関心や意欲において個人差が大きいのが興味のないものへ、どう目を向けていけばよいのか。

## 3 指導助言

○大きな筋肉を動かすことを考えたい。幼稚園からの発信が家庭へと伝わっている。幼児期は、神経系が身のこなしの器用さとして発達していく。一人ひとりのカルテをつけることにより、細かなところまで見取れるようになると思う。調整力の刺激ということで20種類の遊びがあった。散歩は持久力へとつながる。子供たちは多くの動作をしていた。近藤による『84の動き』を参考に観察してみるのもよい。

○分け合う、要求する、あやまる、表現するなどの人とかかわる力を分析して、環境を作ってきている。教師の援助として、10分間くらいで遊びの要素を変えていたのがよい。幼児の集中、持続は15分が限界である。例えば要素が同じであっても、音楽、動き、場など変化に富んだ工夫が必要なので、一斉の動きの中で取り入れる場を作る工夫を続けてほしい。

○5歳くらいで、競う、自分の記録への挑戦としていくのがよいのではない。人とのかわり、職員全員、保護者、地域とよく考えている。社会性も育てられている。

○洗練された子供の能力は要求すれば要求するほど伸びる。育てたい力を洗い出し、行動目標を具体化して経験させていくとよいと思う。よりダイナミックな動きへつなげてほしい。ルソー、モンテッソリは外遊びが大切と言っている。幼児教育は教育の原点と再認識した。

## 第41回全国学校体育研究大会

## 分科会報告

## 第2分科会 札幌市立幌西小学校

記録 札幌市立山の手小学校教諭 田中潔人



研究主題 「楽しさ・うれしさを味わいながら、運動にかかわり続ける姿を生む体育学習」

## 1 研究発表

- (1) 発表者 幌西小学校教諭 田川 則紀  
(2) 主題設定の理由

本校では、個性と共生を重視した授業改善を通して、自己の高まりを実感しながら自らの学びを拓いていく子供の育成をめざしている。体育の学習では、運動にかかわること味わう「楽しさ」や友達と共に活動することで実感する「うれしさ」に価値を見出し、子供の実態に即した教材化を図り、学習展開に位置づけていくことで主題の実現をめざしている。

## (3) 研究の視点

〈視点1〉「一人ひとりのよさが表れ、生きる学習展開」

主題に迫るために適した単元構成であるかどうか、そのための教材化や教師のかかわりはどうであったか、課題解決的な学習場面は構成できたかという点を見つめる。

〈視点2〉「互いのよさが生きる集団の機能のさす方」

集団における学び、学び合い、交流場面や形態の設定、相互・自己評価、それらに関する教師のかかわりを見つめる。

## (4) 研究の実践

〈視点1について〉

バスケットボール型ゲーム「走れ！正直球」を題材に、一人ひとりの学びを保障するため1対1や2対2の場面を多く設定した。ボールの操作が苦手な子にも自分の動きを工夫する余裕が生まれ、得点するうれしさや得点に結びつく動きを実感させることができた。また、ゲーム領域の持つ「チームプレーの楽しさや醍醐味」を損なうことのないように、チームでの交流活動や練習場面に教師が具体的にかかわることができた。

〈視点2について〉

低学年の子供に親しみのある「トムとジェリー」を鬼遊びとして構成した。1人の猫が4人のねずみを追いかけるという場面からスタートする学習は、一人ひとりに鬼ごっこ醍醐味である「追いかける」動作を味わわせる場として有効であった。相手の動きに合わせて動いたり、作戦を立てたりするなど工夫した姿が見られた。自分のよさを精いっぱい発揮すると共に、お互いのよさを認め合いながら一緒に活動するうれしさや楽しさを味わっていた。

## 2 研究協議

(1) 3年生『見つけよう！げんキーズの「げんきのもと』

〈総合的な学習との関連について〉

指導要領に示されている保健の学習内容が多く、4時間では知識・理解の学習に偏りができてしまう。体験や実感を通した学びとしていくためには、総合的な学習でのねらいの達成と合わせて考えていきたい。問題の発見や解決のための調べ方を保健の中で学ぶとすれば、総合的な学習の場としても十分に成立する。また、「一日の生活のリズム」を考えていくうえで、のびのびは、保健にあると考えている。

(2) 4年生『ドッキ・ドッキ・ドッカン島』

〈評価について〉

ゲーム中、用具を操作することのできなかった子（ボールにさわる機会がなかった子）もいたが、この運動をゲーム化した時点で、ボールにふれる機会に差ができることは予想されていた。また、ルールのうちでも、ボールをキープしてはダメなことを主眼とし、一生懸命に取り組む姿を期待していた。評価にあたっては、準備運動まで広げて考えると、ボールにふれる機会はどの子にも十分あったと考えられる。ゲームの場だけでの評価とは考えず、多くの場を通した評価を進めていく。

(3) 6年生『かわせVライン』

〈領域の設定について〉

巧みな動きを高める運動を副教材としてではなく、単独教材として構成している工夫がよかった。巧みな動きは「かわす」だけではないが、他の動きについては、他の学年や単元で対応したものを扱っていく。単独単元で構成したのは、「かわす」ために体全体を使った動きが大切だと考えたからであり、準備運動の中で、バンブージャンプや長縄跳びなど、他の運動要素を盛り込んである。

## 3 指導助言

問題解決的学習としての評価としては、追求の要素として「何回かわせたか」という量的な追求があれば問題解決的学習となり得る。子供の学習の流れとしては、「感じる→イメージする→発揮する」という一連の流れを大切にしていきたい。

単元計画のあり方としては、子供の実態から授業案が構成されている点が良い。また、評価規準が、実態・めざす子供の姿・単元構成・本時案の中にもれなく位置づいており、その達成に向け、鍵となる言葉を選定したうえで、「何を」「どのように」扱っていくのかを具体的に考えている点が評価できる。

## 第41回全国学校体育研究大会

## 分科会報告

## 第3分科会 札幌市立幌南小学校

記録 札幌市立宮の森小学校教諭 千葉 智 明



研究主題 「体を動かす心地よさとともに高め合う喜びを実感できる体育学習」

## 1 研究発表I

(1) 発表者 幌南小学校教諭 大牧 真一

(2) 主題設定の理由

幌南小学校の子供にも、運動能力の低下傾向が見られる。場を整えることも重要だが、子供たちの心への働きかけがより重要である。そこで、どの子ども十分に運動に浸り体を動かす心地よさを味わうと共に、豊かに人とかかわりながら自己実現していく喜びを実感できる体育学習をめざし、教師のあり方を探っていこうと考えた。

(3) 研究の視点

〈視点1〉動く楽しさ・集う楽しさ・できる楽しさ・つくる楽しさが実感できる教材化

〈視点2〉子供の学びを支える見取りと価値づけによる教師の支援

(4) 研究の実践

〈実践例1〉第3学年「スルーパスゲーム」

どの子にも身につけさせたい技能を、オープンスペースを見つけフリーになったり、フリーを見つけパスをしたりする技能とし、攻守を3対2のやさしいゲームに浸り、楽しむ中で身につけさせることをねらった。

〈実践例2〉第6学年「ハートバレーボール」

動ける子と動けない子の差を解消することをねらって、2人ずつ、高いネットのコートで行うことでボールを打つ機会を増やし、ボールや人に体を向けるすばやい動きを身につけることができるゲームを考えた。

2 研究発表II

(1) 発表者 留萌市立留萌小学校教諭 工藤 智

(2) 研究主題 「自ら気づき、考え、追求を楽しむ体育学習の在り方」

(3) 主題設定の理由

自ら問いを持ち主体的に学習に取り組む子供、問いを解決する方法を選択できる子供、自分の考えを表現できる子供、そして問いを連続させて追求を楽しむ子供をめざし本主題を設定した。

(4) 研究の実践

技術伝達的になりがちなスキー学習を、子供たちの願いに応じて、4つの問を設けて単元を構成した。1)速さを競う。2)上達コース。3)友達とターンを変化させたり同調させたりして楽しむ。4)自然と親しみいろいろ斜面を滑る。この4つのコースをねらい①、ねらい②の2ステージ化して、自然との

かかわり、人とかかわり、スキーとかかわりを楽しむことができるように工夫した。

## 3 研究協議

(1) 研究発表 1 に関して

○明るく、認め合うことができる子供たちだった。



○3年生の授業も6年生の授業も全体交流の話し合いのスタイルがとてもよい。子供が気づいて全体に広げ、深めていく過程がよくわかる授業であった。

●短い単元を離してつないでいく。離す時間に日常生活をねらっている。また、似た特性を持つ単元を同時期に扱うという工夫をしている。体育館でバスケット、グラウンドでサッカーというようにし、ボールゲームに必要なパスへの意識をより効果的に学ぶことができる。

(2) 研究発表2 に関して

○めあて①、めあて②は、少し努力したらできる方を先にした方がよい。

●技術追求というよりもスキーに親しむ、冬の自然に親しむことを主眼に、地域にあった生涯スポーツとして進められている。

## 4 指導助言

○授業評価をしっかりとしたうえで授業作りをしている。また、先生が子供の目線に立って授業に臨んでいることがすばらしい。

○子供たちの情意面もよく育っており、友達の動きを見てさまざまなことに気づいて励ましたり、うまくいったときに歓声を上げて一緒に喜んだりする姿が見られた。

○ドリブルが難しいということでゲームの要素からはずしてもよいのか。3年生のこの段階であればドリブルも何らかの形で系統的な考えを持って取り組ませたい動きである。

○ソフトバレーはニュースポーツである。勝敗が絡む中学校からのバレーボールとのつながりはどうだろうか。

## 第41回全国学校体育研究大会

## 分科会報告

## 第4分科会 札幌市立伏見小学校

記録 北海道教育大学附属札幌小学校教諭 楡 井 雄 一



研究主題 「運動を楽しむ心をはぐくみ、生き生きと動ける体をつくる体育学習」

## 1 研究発表

(1) 発表者 伏見小学校教諭 嶋本 剛

(2) 主題設定の理由

本校では、体育への興味や関心の高い子供が多く、スキー教室、スイミングスクールなどに通っている子供が多い。しかし、その一方で、休み時間は教室で過ごす子が半数近くいるのが実態である。このように、活発に運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られる。

また、スポーツテストの結果から、学年が上がるにつれて運動能力が低下傾向にあることがわかった。こうした児童の実態から、体育の学習を通して生涯にわたって運動を楽しもうとする原動力を子供に持たせることが必要であると考え、主題を設定した。

(3) 研究の視点

ア 自分なりのコツをつかみ、運動に自在にかかわる学習展開を図る。

イ 交流からみんなのコツを明らかにし、心と体を高める場を構成する。

(4) 研究の実践

第4学年「2人でGO!」(用具を操作する運動一竹馬)の実践をもとに、「やさしい教材」「仲間とかかわりのある教材」「課題の持てる教材」が必要である。さらに、歩ける子と歩けない子のペアで行い、支え合ったり、情報を伝え合ったりできるようにした。その結果、自分なりのコツをつかみ、自信を持つことができた。また、交流で明らかにされたみんなのコツを生かしていくことで、心と体を高めていくことを主張した。

## 2 研究協議

(1) 授業公開I 6年「集団跳び箱・集団マット(器械運動/跳び箱運動・マット運動)」

指導者 教諭 嶋本 剛

「今回の授業の中で今までできる技とあるが、マット運動に対する子供たちの思いや願いはどのようなものであったのか?」「単元の4/10時間目であれば、自分の運動技能を高めるといことがまず前面に出てくるのではないか。その後、集団としての楽しさが出てくると思う」という質問、意見が出た。

授業者は、「単元を通して、上達していく中で喜びを感じてくれればと思う。実態は、あまりマット運動を好まない子が数名いる。個人種目ではなく、集団として楽しめるように単元構成を作成した。また、今年度の夏には水泳の授業でシンクロナイズドスイミングを取り上げ、みんなで作り上げることの楽しさを実感させた」と答えた。また、この授業を友達同士(集団)で行うのであれば、4年生の時のカリキュラムの位置づけが弱かったのではないかという意見もあった。

(2) 授業公開II 2年「鬼遊び」(ゲーム)

指導者 教諭 柳澤 幸宏

「作戦タイムはゲームの間に必要であったか?」「子供たちには、得点がわからなかったと思う。見やすいように表示しておくべきだった」という質問・意見に対し、授業者は、「授業をやっていく中で、明らかに動けなくなってきた。だから、交流を設定することでその後の動きが変わると考えた。また、今回の授業では勝負を目標にしたわけではなく、自分の動きを高めることを大切にしたいので、得点はあえて表示しなかった」と答えた。

## 3 指導助言 テーマ「指導と評価のあり方」

評価とは、本来子供に還元できるものでなければならない。その評価によって、その子の秘めた可能性を引き出せるかどうかにかかわってくるのである。言い換えれば、評価とは生きる力をつけさせるための評価でなければいけないのである。

現在、その評価のあり方は確立されてはいない。評価の項目を客観化すれば数は膨大なものになってしまう。そうならないためにも、子供の到達度・達成度に合わせて評価項目を考えていった方がよいと考える。

では、主観的認識評価は、だめなのだろうか。そんなことはない。ただし、指導のあり方に問題があれば、評価もだめになってくる。つまり、指導と評価は一体化していなければならないのである。必ずしも評価の方法は同じではない。かえって「手法はこうあるべきだ」という方がたくさん危険性を孕んでいる。教育的な・体育的な視点の見方によって、目標が変わってきて当然なのである。したがって評価の方法も違ってくるのである。

## 第41回全国学校体育研究大会

## 分科会報告

## 第5分科会 札幌市立緑丘小学校

記録 札幌市立澄川南小学校教諭 三浦史人



研究主題 「豊かにかかわり合いながら、運動する喜びを実感できる体育学習」

## 1 公開授業

2年生「ジャングルたんけん」では、体育館に跳び箱やマットなどの器具や用具をセットし、子供たちが設置されたコースを自由に動き回りながら、いろいろな動きを身につけさせる学習が展開された。本時では、跳び箱の上から跳び下りた後の着地から、次の動きを意識させることによって動きを高めることを目的としていた。5年生の「ハンドボール」では、フリーの状態を作らせるための動きの工夫を簡単にボールを扱ったり、シュートができるよう、「ハンドボール」の学習を構成した。兄弟グループでの交流等さまざまな試みにより、誰もが楽しく参加できる工夫がなされていた。6年生「ストップ! 薬物乱用」では、課題解決の学習を進めることに重点をおいていた。本学習では、薬物という本来は身近ではないものを、自分のこととしてとらえさせるために、ケーススタディーを行った。

## 2 研究発表I

(1) 発表者 緑丘小学校教諭 野村 淳一

(2) 主題設定の理由

緑丘小学校での児童の実態（走力・投力の低下）をふまえ、各自が課題を持って学習に取り組むという「自ら学ぶ」姿を育てること、友達同士がお互いを見合い、「共に高め合う」姿を育てるために設定。

(3) 研究の視点 「自ら課題を見出し、学びを進める教材化」「自ら見方・考え方を広げる学習展開」

(4) 研究の実践

実践例として1年生の基本の運動では、低学年で経験させたい動きを単元の核として位置づけた。その動きのアナログ的な要素を含む運動遊びを楽しませることを目的とした。5年生では「タグカバティール」の実践を試みた。ここでは、「鬼遊び」の持つ、「逃げる」「追いかける」「かわす」という楽しさを発展させた。タグを使うことにより、身体接触に伴う恐怖感を取り除く工夫も考えられた。

## 3 研究発表II

(1) 発表者 函館市立北日吉小学校教諭 佐藤 豊

(2) 研究主題 「子供からみた特性を広くとらえ、運動の楽しさを追及する授業の構築」

(3) 主題設定の理由

授業硬直化によって生じた授業の形骸化と学習の希薄化を打開するために、広い視野に立って学習過程を考えることにした。「もの・ひと・こと」との

かかわりを窓口として授業の工夫に焦点を当てて研究を進めた。

(4) 研究の視点 「生涯スポーツの基礎学習」「子供からみた特性を広くとらえる」「もの・ひと・こと」とのかかわり

(5) 研究の実践

開始当初は、クローズド・スパイラル型での研究推進であった。めあての移行が時間によって区切れ、運動欲求の不具合などから、オープン・スパイラル式の学習過程が考え出された。苦手意識を持つ子への対策として、「もの・ひと・こと」とのかかわりを授業に取り入れ、子供からみた特性を広げること重点をおいた。ただ、運動量確保等から疑問が残る、現在では時間で区切るクローズド・スパイラル型の学習過程を組み、モジュールの考え方による、余裕のある学習過程を組んでいる。

## 4 研究協議

2年生の授業では、課題の持たせ方や子供のめあてとの関連性、場の設定の工夫、子供同士によるかかわり合いなどについて意見が出された。5年生の授業では、「ハンドボール」と「バスケットボール」や「サッカー」への発展性、単元構成の考え方、個人技能の差に関しての具体的な手立てなどについて、意見が交流された。6年生の授業では、場面設定の理由、保護者への配慮事項などに関しての意見が出された。

研究発表IIにかかわって、個人課題と共通課題の設定方法、個人評価の工夫、学習過程におけるねらい①から②への切り替え時期、めあて学習の方法についての意見が出された。

## 5 指導助言

2年生の「ジャングルたんけん」では、「腕支持」というねらいから意図的な場の設定が考えられていた。克服的な課題を含ませることが、どの子にも楽しませるようになると考えられる。5年生の「ハンドボール」からは、運動の特性を考えたルール作りの重要性、個人差を吸収する場・用具・ルールの工夫について、課題ゲームを考えることによって、子供たち自らが気づくような学習のあり方。6年生「ストップ! 薬物乱用」からは、ケーススタディーの効果的な実践、断るときにむずかしさを気づかせること。また、研究発表IIからは、子供たち自ら達成感が味わえるようなねらいを設定することによって、より意欲的な学習効果が期待できることや、子供たちがいろいろな楽しみを体験できるような単元構成の工夫などについて意見が述べられた。

## 第41回全国学校体育研究大会

## 分科会報告

## 第6分科会 札幌市立厚別北中学校

記録 札幌市立北辰中学校教諭 村山直樹

研究主題 「自ら学び、考え、表現し共に高め合う体育学習」

## 1 研究発表I

(1) 発表者 厚別北中学校教諭 谷内 公一

(2) 研究の視点

研究仮説「気づきや工夫を重視した課題解決的な学び方を定着させることによって、運動の喜びを味わい、意欲を喚起し『主体的に学ぶサイクル』ができることにより、自己学習への転化を図ることができる」を検証するため、①学習環境システム、②教育課程編成、③学習支援システムについての工夫・改善を視点とした。

(3) 研究の実践

視点①については、開校5年目ということもあり、現在もグラウンドの整備作業が行われていることから、室内での陸上競技に取り組む一因となっている。また、人的な部分として仲間やチームとしての活動が主となる「体ほぐし」や「球技」を年度当初に配置し、男女共習・別習の使い分け、活動グループの再編成を意識的に多く行うことや専科的指導の試行など、活発な交流につながるよう工夫している。視点②については、必修教科の中で種目選択を多めに取り入れ、多様な個人課題に対応するために選択履修幅の拡大に努めている。

また、教科で得た知識や技能が総合的な学習の時間で実践的に生かせるよう、連携について模索しているところで、公開授業中のポスターセッションは、その代表的な例である。時間割編成上の工夫としては、年間35週を15週・10週・10週に分け、15週期に週2単位時間、10週期に週3単位時間を配置している。体育実技は、原則的に2時間続きで実施し、10週期の1単位時間を保健分野と3学期に実施するスキー授業特別時間割中に配分している。

さらに、陸上競技大会を運動会に切り替え、陸上競技領域の指導の時期的・内容的制約が解消された。視点③については、成果の実感が得やすい題材を実施し、学び方の定着をねらう意図から第1学年で陸上競技教材でハードル走を取り扱っている。また、「今の力で楽しめる」教材化を意識し、責任や協力といった態度や学び方に対する基礎・基本を重視している。

## 2 研究発表II

(1) 発表者 北見市立南中学校教諭 緒方 隆人

(2) 研究の視点

ア 挑戦する課題と個人・集団が持つ技能水準以上でつり合う課題

イ 自己の存在感・有用感・達成感が味わえる授業

(3) 研究の実践「3年間を見通したマット運動」

研究の視点を踏まえ、技の系統性に関して、身のこなしのよい、恐怖心がまだ薄い1年生のときに「倒立」をしっかり身につけておけば、2・3年生の発展的な技へと展開されると考えた。また、各技の達成度を8段階に区分した学習カードや8段階の達成度の模範演技をVTRに収録し、技の確認のために活用した。さらに仲間との関わりとして、班内での相互評価を取り入れた。

## 3 研究協議

仮説の検証についての考え方や方法、「基礎・基本の徹底」ということについて両校から説明があった。また、時数削減の中、厚別北中学校から2時間続きの授業形態についての成果と課題について報告された。さらに、スキー授業の評価のあり方や保健体育科としての教育評価に関わる説明責任という内容にまで話題がおよび、熱心な意見交換が行われた。

## 4. 指導助言

指導要領の3つの目標を1年間90時間で全部に重点を置きコンスタントに行うことは非常に難しい。よって内容を重点化し大胆にとらえ教育課程の編成をする必要がある。すなわち3年間を通して、これは身につけさせたいという内容を生徒の選択ではなく学校独自の視点で教育課程を組み実践し、生徒の育成に励めればと考える。

学校評価に関しては数量的評価として、はじめとわりに実施するアンケートや1学期、3学期に行う授業公開などによって子供の変化を見てもらったり、新体力テストを実施し、各学年で変化を見てもらうなど、学校としての説明責任を果たす必要もある。今回の4観点評価は、技能だけの重視ではなく、関心意欲態度・思考判断を含めてトータルで教えたことを評価するのでやりやすくなった。指導内容の評価は、指導要領の目標3つを4観点に一度ばらして、再構築しなければならぬので難しさは残る。

体育科としての特性である協力・ルール重視などの社会性を教える他教科は少ない。この社会性を観点の関心・意欲・態度に入れるか、ルールに関わりがあるので知識理解に入れるかなど悩みは尽きないが、学校としてこの評価規準が明確であれば、保護者への説明によって深い理解が得られる。また、評価については、高校入試に対する対応も課題であり、学習点については、高校、中学校との情報交換を密にする必要がある。

## 第41回全国学校体育研究大会

## 分科会報告

## 第7分科会 札幌市立札幌北中学校

記録 札幌市立月寒中学校教諭 小林 大介



**研究主題** 「仲間とのかかわりの中で、運動の楽しさや喜びを深め、興味・関心を持たせる体育学習」

## 1 公開授業

札幌北中学校尾崎英弥教諭・小林純恵両教諭による2年選択授業「集団マット」と札幌市立元町中学校菅原伸一教諭による1年「バレーボール」の公開授業が行われた。どちらも意見交流や相互評価により、他の考えを受け入れたり他の長所や改善点を見つげたりする力が身につけており、仲間とのかかわりが深い授業であった。集団マットの授業では、T・Tによりきめ細やかな支援を大切に、生徒自らの気づきや工夫を生かしていた。バレーボールの授業では、コート（バドミントンコート）、チームの人数、軽量ボールの使用等の工夫により、楽しさ・気づき・かかわりを引き出す授業になっていた。

## 2 研究発表I

(1) 発表者 札幌北中学校教諭 尾崎英弥

## (2) 主題設定の理由

どの運動においても課題意識を持たせるとともに、仲間との共存、共に教え合い・磨き合い・高め合うなどのかかわり合いを重視させたいと考え設定した。

## (3) 研究の視点

ア カリキュラム編成の工夫

運動量の確保と興味・関心の持てる授業をめざし編成した。

イ 仲間とのかかわりの中での課題解決的な学習単元の学習過程を①今持っている力で運動を楽しむ段階と②高まった力に応じて新しい工夫を加えて運動を楽しむ段階の2つのステージで構成した。この中で仲間とのかかわり合いの場面を設定した。

## (4) 研究の実践

実践例としては2学年男子のマット運動（集団マット）と1学年女子のマット運動があげられた。研究の成果として、生徒が自分自身と仲間とのかかわりについて意識を持ち始め、積極的にかかわっていきこうとする様子が見られるようになった。

## 3 研究発表II

(1) 発表者 北海道教育大学附属釧路中学校教諭

佐藤 毅

## (2) 主題設定の理由

運動の持つ特性についての子どもの意識、技能面の定着の程度、子どもの自発的な活動を支えるための教師の支援のあり方、仲間とのかかわり方が課題

としてあげられた。そこで「運動の魅力を実感し夢中になって活動する子どもを目指して」を研究主題に設定し、検証を行った。

## (3) 研究の視点

ア 学び方（学習計画書の効果的な活用と課題設定・追究・評価のスパイラル的学習の工夫）

イ 基礎技能の習得（運動の特性のおさえとこれだけは身につけてはならない技能の意識）

ウ かかわり（人とかかわり・物とかかわり・こととかかわりについて）

## (4) 研究の実践

実践例として3学年のバスケットボールがあげられた。成果としては、個人の課題を解決するために、チームの仲間同士の教え合いや話し合いが随所に見られた。技能定着を図るためのドリルゲームの取り組みにより個人的技能の向上が見られた。

## 4 研究協議

## (1) 公開授業について

マット運動については、グループづくりについて話され、普段の生活も見ながら核となる生徒を置き、できない生徒をサポートするようなグループ編成を行っているという意見が出された。

バレーボールの授業については、生徒同士の声の出し方、またその指導の仕方、コートの設定や使い方などの意見交換がされた。

## (2) 研究発表について

基礎・基本をどのようにとらえるかについて意見が出された。基礎と基本を分けて考えているという意見は少なく、基礎・基本は一人ひとりの生徒によって違ってよいのではないかという意見が出された。

また、勝敗や完成度へのこだわりといった競技スポーツから離れられないのではという疑問があがった。意見の多くは、勝敗や競い合うことから目標や課題が生まれ、意欲へつながるというものだった。

## 5 指導助言

基礎については、目的のための最低限必要なものというのが一般的である。学校教育では最終到達点をもとに基礎基本を考える必要があり、一人ひとりを見つめたうえでとらえるべきである。

評価について、絶対評価になったが、相対評価との関係を考える必要がある。個人の意欲を高めるための絶対評価であるべき。

社会で求められている体育、生きる力、体力増進につながる体育学習がこれからの課題である。

## 第41回全国学校体育研究大会

## 分科会報告

## 第8分科会 札幌市立伏見中学校

記録 札幌市立藻岩中学校教諭 石橋 秀二

## 1 研究発表I

(1) 発表者 伏見中学校教諭 大原 敏史

(2) 研究主題 「達成感を感じることで、自ら進んで運動に参加する姿勢を育てる体育学習」

## (3) 主題設定の理由

生徒が「どのようにしたら運動に多くふれ合うことができるか」「どうしたら将来にわたって運動を実践していけるか」を中心課題とし、生徒たちが授業の中で積極的に運動を学び、どう定着させたか、その過程を明確にすることを研究の主な内容とし、主題を設定した。

## (4) 研究の視点

①楽しく取り組める教材の工夫

②生徒自らの気づきや工夫を生かす場の設定

③人の関わりを豊かにするグループ学習

## (5) 研究の実践

本校体育科がめざす生徒像を「技能を身につけることや体力を高める方法を考えられる生徒」「互いに指摘し合い、教え合える生徒」「たくましく、心身ともに健康な生徒」とおさえ、「積極的に運動を学んでいく過程の明確化」「基礎・基本の運動をどう定着させていくか」「評価内容と方法は」の3点を課題とした。体育の学習を通して、生徒の自主的な活動を大切に、支援し、達成感を味わわせることにより運動への参加意欲を高めることを考え、生徒の実態を考慮しながら、3つの研究の視点に迫っていった。

## 2 研究発表II

(1) 発表者 旭川市立北門中学校教諭 三上山 三博

(2) 研究主題 「個が生き、仲間が生きる学び方をめざして」一体づくり運動の実践から

## (3) 主題設定の理由

本校生徒は、自ら考え、主体的に判断・行動したり、豊かに表現したりすることを苦手としており、体育の授業においても、まだ運動を直感的に楽しむ段階である。個から仲間へ、仲間から個へと人との関わりや運動との関わりが広がり深まりを求めて主題を導き出した。

## (4) 研究の視点

①一人ひとりの学びの確立

②教材の工夫と開発

③指導と評価の一体化

## (5) 研究の実践

一体づくり運動を通して自己の体に気づき、それを高めようとする方法を身につけさせる。

活動の中で自分の課題を見つけ出し解決しながら、

仲間と交流することで生涯を通してスポーツ・運動に関わる態度を身につけることができると考えた。特に、教材の工夫と開発では、チューブ・バランスボール・ラダーなどの教材を使用し、オリジナルトレーニングメニューを考えさせた。「学びを見つめる」「主体的に取り組める授業方法の工夫」「個から仲間への広がり深まりを体験」の3つを課題として授業づくりを行った。

## 3 研究協議

準備運動において、教師がつくる部分と生徒がつくる部分がある。体づくり運動では、音楽に合わせて生徒が考案した。他の種目では、体育館ではランニング・ストレッチ体操・サーキットトレーニングを約束事として教師が考案したものを与え、自主的に取り組んでいる。体力を高める意味で年間を通して、体づくり運動を準備運動の中で扱う。今回の授業で男子にも平均台を取り入れたが、新体操の分野にも男子があり、女子・男子の種目という固定された見方をすることなく、取り扱ったのはよいことではないか。運動量の確保について、学習内容を3分の1以下に削ると運動量は増えるのではないか。また、技能ができない生徒に対して何が必要かを分析し、指導することが大切ではないか。生徒の関わり・相互作用で、教師はもっと生徒の中に積極的に入り教えなければならないことは教え、また賞賛・激励すべきである。一人ひとりの達成感について、自分たちが考えた運動について他の生徒に紹介するというスタイルは、心地よく運動してもらえたか、みんなに喜んでもらったかなど個々において達成感の感じ方につながり、教え合いが学び方の目標となっている。問題解決型の学習を確立するため、1年生時にはステージ型の学習し、3年生あたりから課題解決型に入った方がよいではないか。

## 4 指導助言

ステージ型学習や問題解決型学習では、系統的に学習していくことが大切であり、運動が持つ知識・理解は身につける必要がある。また、教師のめざすものなどは、必ず生徒に教えていかなければならない。授業において教師が積極的に生徒を観察し、生徒との関わり合いを常に新鮮な気持ちであらること。

テーマにある「はずむ心」というのは、運動して楽しいと心が笑うとでもいうか、常にはずむものである。はずむ動きが、楽しみ・喜び・爽快感・心地よさなどを引き出すものである。学校教育に関わる者として、今日感じられた疑問点を課題追求し、お互いにこれを発展させていいただきたい。

## 第41回全国学校体育研究大会 分科会報告

## 第9分科会 北海道札幌国際情報高等学校

記録 北海道札幌篠路高等学校教頭 安田 謙一

研究主題 「自ら学び、自ら考え、積極的に課題に取り組む体育学習」

## 1 研究発表

- (1) 発表者 札幌国際情報高等学校教諭 佐藤 和幸  
(2) 主題設定の理由

ア 生徒の実態から

目的意識をしっかり持った生徒が多く入学し、礼儀正しく、明るく素直で活気のある学校である。運動部の活動も充実しており、全国大会での優勝・入賞者も出ている。

しかし、現代の青年の多くに見られるように「指示待ち」「自分の意見を主張できない」という生徒も見られ、人間関係が築けず、孤立化、思いやりの心の欠如した生徒も少数見受けられる。体育の学習については、積極的に活動するが、課題意識を持ち、自ら主体的に問題解決の方法を創意工夫したり、仲間と協力して課題解決できる生徒が少ない現状である。このことを踏まえ研究主題を進めることにした。

イ 本校の研究経過から

本校では、「心身を鍛え、強い意志と健康な体をあわせもつ」の学校の教育目標の下、「運動能力を高めるとともに社会性の向上を図り、健全な心身の発達を促し、生涯を通じて、継続的に運動できる能力と態度を育てる」という保健体育科としての目標を掲げ、研究・実践を行ってきた。平成7年の開校以来、札幌マラソンに全校生徒を参加させ、生涯スポーツの基礎を培い、地域社会に貢献させるよう取り組んでいる。

また、コンピュータのインターネットを利用した情報教育ネットワークの運用を進めており、学習に関連する情報や教材の検索・収集およびこれらに関連する質問の送信・回答の受信や画像データ・文書データの収集などを利用することによって、思考力や判断力が養われている。

## (3) 研究の視点

ア 生徒が興味を持って取り組める場づくり(教材づくり)を工夫する。

イ 視聴覚教材やコンピュータを有効活用する。

ウ お互いに協調し、豊かな人間性をはぐくむ。

エ 自ら運動する意欲を培い、基礎的な体力を高

めることを重視する。

オ 学習活動の実践力を育成するための指導方法(課題学習、実験学習、コンピュータ)の工夫をする。

## (4) 実践例 全学年生徒 単元名・札幌マラソン

本校では平成7年の開校以来、地域社会に積極的に参加するという観点から、全校生徒が毎年10月の第1週の日曜日に行われる札幌マラソンに男子は10km、女子は5km・10kmから選択して参加している。

## 2 研究協議 質疑応答なし

## 3 指導助言

## (1) 保健

生徒の研究発表でのコンピュータ(パワーポイント)の活用は見事である。今後活用が増えていくことが予測される。今回の発表はIT機器を使用した授業展開のモデルである。

良い点として、

○生徒たちが発表までの間、調べてきたであろう創意工夫が見られる。

○労力の簡略化、内容が濃い。

課題として、

○1つの班が自己発表以外の内容をどのように理解できるか。

○対策・予防が個人の問題に集約されているが、感染症は個人の責任では防げない問題がある。

○個人がもっと正しい知識を持ち、社会全体の問題として考え、力をつけていく必要がある。

## (2) 体育(選択制授業)

ア 器械運動

イ 陸上競技(ハードル走・ターボジャブ)

ウ 選択制の問題

生徒の興味関心に応える選択性は優れているが、もう一方で内容が不鮮明・抽象的な場合、生徒に下駄を預けてしまう場合がある。選択性の意義を十分押さえながら、選択制の持つ問題点や解決しなければならぬ点をしっかり押さえる必要がある。

エ 総括

体育の現場で大切な点として、生徒個々に対し、見配り・気配りをするのが授業を良いものにしていく原点であると思われる。

## 第41回全国学校体育研究大会 分科会報告

## 第10分科会 北海道札幌新川高等学校

記録 北海道札幌開成高等学校教諭 佐藤 昌弘

研究主題 「基礎・基本を大切に、楽しく実践できる体育学習をめざして」

## 1 研究発表

- (1) 発表者 札幌新川高等学校教諭 幸丸 政貴

## (2) 主題設定の理由

学習指導要領の改訂に伴い、選択制授業の導入に向け、平成3年度よりその実践を積み重ねてきた。そこで、選択制授業における「基礎・基本」の扱いと「楽しく実践」できる選択制授業のあり方を研究主題として設定した。

## (3) 研究の視点

ア 生徒の健康保持と体力の向上

イ 体育・スポーツ活動の計画的な実践

ウ 基礎・基本的な練習過程を大切に、生涯体育へ移行する土台作り

エ 仲間と共に協力し、相互に高め合う体育学習

## (4) 研究の実践

ア 選択制授業の導入(平成3年4月)

教師主導型から生徒自らが学習の主体者となりうる選択制授業の本格的導入に向け、平成3年度より3年生について3年間試行的に実施した。

イ 導入段階での問題点

評価基準となる①学ぼうとする力(興味・関心・意欲)②学ぶ力(思考力・判断力・選択力・表現力)③学んで得た力(知識・技能)を数値化することが解決できない課題であった。

ウ 選択制授業の全学年展開(平成6年4月)

1学年では屋内外合わせて4種目からの選択とし、1種目に必ず担当教員が1名つくようにし、グループ学習の形態でリーダーの養成や自主的活動を体験させた。それを基礎として2年時から7種目からなる幅広い選択制へと発展させた。

エ 選択制授業の改善実施(平成9年4月)

1年生については、2クラス2展開の男女別とし、基礎・基本を重視する授業形態に戻した。また、2・3年生の展開種目を教師1人1種目に限定した。選択授業を3期に分けることにより、選択種目の幅が広がるように配慮した。

オ 研究の成果と課題

平成9年度より1年生の選択制授業をやめて、2・3年生の選択肢を4種目に限定した授業形態については、基礎・基本を指導の重点とする1年生の授業体験を土台に、2・3年生の授業においては以前よりグループの計画が技能面でも系統的

な発展があり、しかも「伸び伸びと楽しく」実践する姿ができた。

## 2 研究協議

○評価基準とは学びの姿を質的に捉えるものであり、いわゆる100mを何秒で走ったかというような数値を評価に入れることは望ましくない。

○フォームの向上などを生徒自身にどれだけ客観的に伝えられるかが問題となる。ビデオでフォームを撮影したり、到達目標を視覚的に訴えて自己評価させるという準備は整っていないのが現状である。

○数値化することへの疑問点はあるものの、だれもが努力や練習により到達できるであろうスキルテストを実施している。例えば、サッカーのリフティングのように、回数が増えたことがフォームの向上によるものであると説明できると考える。



このように評価のあり方を中心に、選択種目としての軽スポーツの導入について、グループ学習のあり方などについての研究協議がなされた。

## 3 指導助言

選択制授業の実践については、平成3年度からの継続した取り組みのなかでシステマチックに実践されている。選択制授業の課題として、好きな種目しかやっていないのではないかと指摘されたりする。体育科教育の意義を考えると、その授業で何を教えるのかどんな力をつけさせたいのかを明確にして、それに導くような手立てが当然必要となってくる。評価については、教師が生徒を評価すると同時に、自分の授業自体をそこで見なおし、評価する必要がある。生徒ができないのを生徒のせいにしてはいけない。教師が授業過程を工夫することによって、生徒たちが生き生きとするような授業になるはずである。

## 第41回全国学校体育研究大会 分科会報告

## 第11分科会 北海道札幌高等養護学校

記録 札幌市立真駒内緑小学校教頭 笹 孝 夫

研究主題 「自ら進んで運動に取り組み、仲間と協力して喜びを共有する体育学習」一創作ダンス・バスケットボールを通して—

## 1 研究発表

- (1) 発表者 札幌高等養護学校教諭 中嶋 徳江  
(2) 主題設定の理由

①本校の生徒は、明るく活発で、体を動かすことが好きだが、運動動作の状態、体力、運動能力・経験、健康状態、興味・関心などの個人差も大きい。  
②大きな集団での運動経験・ルール理解不足、障害の特性等から、仲間とかかわり方がわからず、運動に楽しく参加できない生徒がいる。どの生徒に対しても現在の生活を充実させ、さらに将来をより豊かにたくましく生きる力を育てていきたいと考えた。そのため、さまざまな運動を通して次の3つに重点を置いた。

- ①自分の体力の現状を知る。  
②興味・関心を持ち、喜びや楽しさを味わう。  
③卒業後も運動やスポーツに計画的・継続的に親しむための支えとなる力を身につける。  
この3つの観点から、生徒が興味・関心を持って主体的に取り組むことができる授業、生徒相互のかかわりを生かし、仲間と協力し賞賛し合う生き生きとした授業をめざし、主題とした。

## 3) 研究の視点

- 仲間とふれあいながら体を動かす楽しさや喜びを感じる授業構成の工夫  
○練習やゲームの仕方の工夫  
○興味・関心を高める場や雰囲気づくり  
○生徒の実態から個々の運動欲求を満たす学習集団の形成

- 個に応じた支援活動の工夫  
○生徒の動きを引き出す工夫

## 4) 研究の実践

「全教育活動を通してめざすもの」を受け、保健体育が担うものは、  
○個人の教育計画を活用して学習課題を把握し、教材・教具を工夫することから意欲化を図る。  
○進んで運動に取り組む能力や態度を育成し、体力の向上や生涯体育への移行をめざす。  
○身近な生活における基盤づくりを意識しながら健康安全に関する知識理解を深める。

「創作ダンス」と「バスケットボール」の2つの

実践を通して、達成感や成就感を味わわせ、社会に必要な資質(判断力・責任感・協調性)の育成につながった。また、余暇活動に積極的に取り組む中で、生涯体育への移行や体力向上にも効果的であった。

## 2 研究協議

- 技能に対する個人の目標はどのように評価するか→目標については教師の願いである。  
○反省や意見交流はどのようにしているか、その評価方法は→反省は試合の合間の作戦会議で行われ、T2、T3の教師が見取る。それを生かして一人ひとりの生徒に対する願いを設定し、指導や評価に生かしている。  
○少ない保健体育の授業の中で、体育の担うものが大きくはないか→本校では、体力づくりを毎朝やっている。この朝の活動を基盤として体育や他教科の学習に生かしている。やはり全教育活動を通して解決していくものである(ユアアイピックが始まって8年になるが、本校卒業生が今でもバスケットのチームに所属している)。  
○運動に親しみを持ってない生徒にどのように意欲化を図るのか→友達とのかかわりの中で動けるようになってきている。本時の中でも、声かけや交流を通して動きに変化が見られた。  
○朝の体力づくりの取り組みを詳しく→月曜日は全校リズムだが、火~木は生徒の障害の程度や意欲に合わせて3つのグループに分かれて活動している。

## 3 助言指導

知的障害自立生活者の調査で、スポーツをしている人もいるが、体を動かしたくない人や生活習慣病の患者も多い。学校体育での体力能力の向上、肥満の防止が求められている。心身の健康に結びつく身体活動を卒業後も継続するには、生徒自身が「運動をしたい」気持ちを持ち続ける必要がある。卒業後も運動を続けている生徒のほとんどが施設や学校での喜びを体験している。

「創作ダンス」や「ゲームスポーツ」は運動スキルの面に難点はあるが、体を動かすという「原始的な楽しい体験」に結びつく。どちらの授業でも子供たちは生き生き自己表現していた。この喜びをどう返していくかが大切である。

生涯にわたり身体活動を継続することは、社会参加の促進や健康の維持増進につながる。動きそのものが楽しめるような教材開発や工夫も重要である。

## 第41回全国学校体育研究大会

## 第41回全国学校体育研究大会(北海道大会)を終えて

北海道実行委員会委員長(札幌市立厚別東小学校校長) 宮崎 岩 次



平成14年度全国学校体育研究協議会・第41回全国学校体育研究大会は、平成14年10月17日(木)18日(金)の両日、北海道らしい澄み切った青空のもと、全国各地から1500名を超える皆様をお迎えし、盛大に開催することができました。

本年は、日本学校体育研究連合会が創立されて50周年を迎え、大会前日に、記念式典・祝賀会が盛大に行われました。重み、迫力のあるひと時でした。

この大会をお引き受けしてから、ここ数年間は、「成功」という二文字をめざしての毎日でした。平成11年度に準備会を結成して以来、準備委員会を経て、平成13年度には実行委員会を発足させ準備にあたりました。先輩からのご指導、青森大会や宮崎大会へ参加し、情報入手や引き継ぎをし、そして、文部科学省や学体連本部の方々からの貴重なご指導等々のお陰で、何とか終わることができました。

途中で、予定していた会場が諸事情で使用できなくなり、急きょ平成2年度に使用した札幌市民会館を選んだというハプニングもありました。

大会主題を「はずむ心と体、共に高め合う体育活動」とし、これをめざしての提言でありました。これは、私たちが校種を問わず、授業等でめざす共通の児童生徒像としてきたものであります。しかしながら、授業者にとっては、その成果を具体的な姿で見せなければならぬということで、この主題は厳しいものであります。

## &lt;大会第1日&gt;

## ①特別講演 成田 真由美 氏

スポーツ談だけでなく、障害を克服しながら果敢に生きる氏の生き方に、感動を覚えた参加者が多かったようです。

## ②公開演技

参加者の皆様から、感動をありがとうという評価をいただきました。園児、児童、生徒、学生それぞれの発達段階がよく現れた発表になったと思っています。また、参加した者にとっては、よい交流ができ、「よい学びの場」になったと評価しています。

## ③解説 今関 豊一 文部科学省・教科調査官

「これからの学校体育—指導と評価の一体化—」と題して、子供の成長を促すのに、「自分たちの設

定した評価規準が妥当かどうか」「授業がどう変わったか」等の検討の必要性を話されました。

## ④基調提案

今回は、実践事例を含め、コンピュータを用いたプレゼンテーションとしました。わかりやすかったという評価も得られました。

## ⑤シンポジウム

短時間の中で、登壇者5名、発言者2名ということで、展開に無理が生じるのではと懸念しましたが、高橋健夫先生の的確な進行と事前の運営計画等が功を奏して、よい評価が得られました。内容が、参加者のニーズに合っていたこともその要因と考えられます。

## ⑥表彰式

学校体育振興に貢献のあった学校・個人の表彰が行われましたが、大変スムーズに進行することができたと評価しています。

## &lt;大会第2日&gt;

5校種11会場において、26授業を公開しました。また、研究協議におきましては、18研究の発表をしました。どの会場も活気のある授業、活発な協議が行われ、成果と課題が浮き彫りにされ、意義ある1日になりました。

指導助言者の方々につきましては、道内大学関係者等にすべてお願いしました。これは、地方における体育研究が、大会後も日常的に大学や行政とのつながりの中で深められていくことがより重要であるとの判断からでありました。

次期開催県との打ち合わせ会では、三重県だけでなく、その次の開催県徳島県も交えて行われ、強い意気込みを感じさせられました。まずは、第42回三重大会の成功を心から祈らずにはられませんでした。

終わりに、北海道大会開催にあたり、たくさんのご指導・ご支援をいただきました文部科学省、(財)日本学校体育研究連合会をはじめ、各関係各位に深く感謝申し上げます。また、各分科会での的確な指導助言をいただきました先生方、全国各地から参加いただいた先生方ありがとうございました。感謝、感謝で大会報告とさせていただきます。

第42回全国学校体育研究大会

全国学校体育研究大会(三重大会)を迎えるにあたって

三重県実行委員会会長(三重県立みえ夢学園高等学校校長) 瀬古淳二

平成15年度全国学校体育研究協議会・第42回全国学校体育研究大会が三重県で開催されるにあたり、ご挨拶とご案内を申し上げます。

昨年から小・中学校において、新しい学習指導要領が全面実施され、高等学校でも、本年度から年次進行で実施されることになりました。

評価規準による評価をするためには、体育学習における指導と評価の一体化をどのように図るか、また、その取り組みはどうあるべきかについて、前回の北海道大会の講話やシンポジウムで議論されました。

また、中教審の答申によると、児童生徒を取り巻く環境の変化が、運動する機会を減少させ、以前と比べて体力や運動能力の低下傾向がますます続くという事態が生じてきており、いかに歯止めをかけることができるかについて、真剣にその対策に取り組む必要性を述べています。学校体育や運動部活動の果たす役割が、再びクローズアップされ、いかに体力や運動能力を向上させるかということを含めて議論されるこの時期に、三重県で全国学校体育研究大会が開催されますことは、大変意義深いことと考えています。

当初、メインテーマを「体育ってなに？今を生きる子どもたちにとって」としていましたが、体育の是非を論じたり、今日の体育学習の考え方や要求に対して否定的に捉えているのではないかと誤解を招く恐れがあることから、改めて、メインテーマを「学びをひらく体育の創造」とし、副題を「体育ってなに？今を生きる子どもたちにとって」といたしました。三重県の取り組みを整理すると、

- ◎新学習指導要領が実施され、その意図を踏まえ、子どもたちの「生きる力」を育む体育学習のあり方を求めていること
◎創造的な教育課程の編成や学習内容の位置づけを再検討し、そのことで、教師自身の指導観を問い直してみようとしていること
◎従来までのチャンピオンスポーツの、定着型の授業からの発展的脱却を図り、運動の楽しさが、いっそう味わえるような生成型の授業作りを展開していこうとしていること
◎子どもたち自身の中に、体育は好きな教科に留まらず、大切に必要な教科として位置づいていける

ような体育学習の可能性を見いださせようとしていること

◎楽しい体育の考え方を再検証し、子どもたちに運動の機能的特性を十分味わわせ、充実感や達成感が感じられる授業作りや体力の向上を図ろうとしていること

◎子どもたちのこれまでの運動・スポーツ観を揺さぶることのできるような授業作りに目を向け、スポーツ享受能力の育成や深化・拡充を図ろうとしていること

◎県内指導者はもとより、研究大会に参加していた指導者が、それぞれ、明日からの体育学習の可能性と課題に目を向け、日々の実践を再構築する契機にしようとしていること

研究の方向性や意図が正確に伝わるよう研究テーマについて一部修正を加え、変更した次第です。

また、三重大会の特徴として、2日目の公開授業・研究協議は、三重県を南北に貫く近鉄沿線の14会場にいたしました。その意図は、参加者の方に三重県をよりよく知っていただく機会にしたいこと。また、この大会が一過性に終わることがないように、開催市町村を分散して、各地区委員会を立ち上げ、幼稚園を含む各校種からの委員が一体となって研究組織を作り、県外からご参加いただく方々と交流するための諸準備にあたることを狙って分散いたしました。

子どもは、この研究大会・協議会にご参加いただく全国の方々に、日頃研究されていることや考えておられることを積極的に議論いただき、指導者の体育観・指導観を揺さぶるような意義のある大会となるよう努力いたしてまいります。大会日時は、11月13日(木)、11月14日(金)です。

なお、研究大会終了後には、「日本人の心のふるさと伊勢」「うまし国みえ」と言われる奥伊勢方面にも足を伸ばしていただき、真珠養殖の筏が浮かぶリアス式海岸に夕日が沈む例えような素晴らしい夕景色をご堪能下さい。

さらにこの時期は、紅葉の真っ盛りです。秋深まる伊勢路を味わっていただければ幸いです。三重大会成功のため、ご指導いただきますよう切にお願い申し上げます。

平成15年度全国学校体育研究協議会 第42回全国学校体育研究大会

開 催 要 項

- 1 研究主題 「学びをひらく体育の創造」
2 期 日 平成15年11月13日(木)、14日(金)
3 会 場 【第1日目】 三重県総合文化センター大ホール 【第2日目】 全14会場
4 参加対象者 (1)全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校、養護学校の教員並びに保健体育行政関係者
5 内 容 (1) 平成15年度全国学校体育研究協議会 【11月13日(木)】
(2) 第42回全国学校体育研究大会 【11月14日(金)】

- 6 日 程 (1) 平成15年度全国学校体育研究協議会 三重県総合文化センター大ホール

Table with 11 columns: 9:30, 10:00, 10:30, 11:50, 12:40, 13:10, 13:50, 14:20, 16:00, 16:05. Rows include 11月13日 and 11月14日 with activities like 受付, 開会式, 特別講演, 昼食, 公開演技, 解説, 基調提案, シンポジウム, 閉会.

\*閉会后、引き続き、(財)日本学校体育研究連合会主催の表彰式を実施。

- (2) 第42回全国学校体育研究大会 三重県内14会場

Table with 6 columns: 9:00, 9:30, 12:00, 13:00, 15:00. Rows include 11月14日 with activities like 受付, 公開保育・授業, 昼食, 研究発表と研究協議, 閉会式.

\*第2日目(分科会)の日程は、会場により多少の違いがあります。

\*(財)日本学校体育研究連合会理事・評議員、都道府県代表者会議は、11月12日(水)14時からプラザ洞津にて実施。

## 平成14年度 第2回 理事・評議員及び代表者会議 議事録

副理事長 三原 忠彦



日時 平成14年10月16日(水) 14:50~16:25  
会場 北海道札幌市 京王プラザホテル札幌  
出席者 理事・評議員及び都道府県代表者(69名)  
司会 田川理事長  
記録 三原副理事長

### 開会の言葉 (金森副会長)

航空機のトラブルにより本部役員の到着が大幅に遅れ(2時間半)、申し訳ありません。この後の予定もありますので、会議の進行にご協力をお願いいたします。

### 会長挨拶 (浅田会長)

さっそく本題に入りたいと思います。

### 議長選出

寄附行為により、浅田会長を議長に選出した。  
【議長】平成14年度第1回理事・評議員会の報告をお願いします。

### 1 平成14年度第1回理事・評議員会の報告 (三原副理事長)

本年5月18日国立オリンピック記念青少年総合センターの研修室にて、委任状を含め、60名の出席により開催されました。議事に先立ち、本年は役員改選の年であるため、7名の推薦委員会が構成され、浅田会長を再任したいという委員長の報告通り決定いたしました。議事に入り、平成13年度の事業報告、収支決算報告ならびに監査報告、また平成14年度の事業計画案及び収支予算案が提案され、異議なくいずれも了承されました。次に平成14年度の体育実技研修会の説明があり、了承されました。平成18年度以降の全国大会の開催県については、京都府代表のご発言を得ながら、議長が次のようにとりまとめ了承されました。すなわち、平成18年栃木、以下19年京都、20年岩手、21年は山口・島根・広島の3県のいずれか、22年は福岡か佐賀ということです。報告事項に入りまして、本年度の表彰について、文部科学大臣賞、学校体育研究優良校・功労者の推薦要領・審査等の説明があり、ここで若干の質疑応答がありました。次いで、全国大会開催の準備状況について、第41回大会の北海道、第42回大会の三重県から

それぞれ報告されました。学体連の機関誌「学校体育」については、購読部数激減のため、本年3月をもって休刊に至ったとの報告がありました。その他、50周年記念事業関係で、記念誌、式典・祝賀会について報告がありました。

【議長】続きまして平成14年度役員・理事・評議員の一覧と常務理事の業務分掌をお願いします。

### 2 平成14年度役員・理事・評議員一覧及び常務理事の業務分掌について (田川理事長)

平成14年度役員・理事・評議員一覧表は「会報」の25頁・26頁をご覧ください。第1回理事・評議員会の後、ここに掲載した通り決定しました。また、平成14年度常務理事の業務分掌は、資料1のように決定いたしました。

【議長】体育実技研修会について、幼稚園から高校までをまとめてお願いします。

3 体育実技研修会について (後藤常務理事)  
実技研修会については、幼稚園の部と小学校の部はすでに実施されておりますので、資料2をもって文章報告とさせていただきます。

【議長】では、学体連「会報」について、友添副理事長をお願いします。

### 4 学体連「会報」について (友添副理事長)

第39号を先生方のお手元にお配りしてありますので、ご覧いただければと思います。全国大会の分科会での研究授業等の参観記は、次の40号からは会場校の先生方をお願いすることになっています。

【議長】以上4つの議題についてまとめてご質問いただければと思います。なお、40号には50周年記念行事についても特集として入れたいと考えています。ご質問がなければ、文部科学大臣賞・優良校・功労者の表彰についてお願いします。

### 5 文部科学大臣賞・優良校・功労者の表彰について (田川理事長)

資料3の1枚目は、文部科学大臣賞(最優秀校)の一覧です。次いで学校体育研究優良校132校、功労者賞受賞者149名の一覧となっております。優良校・功労者賞については、7月27日に中央審査会を、文部科学大臣賞の審査会は8月16日にそれぞれ開催

研究資料集に記載してあります先生方に審査をお願いします。各学校ならびに個人の受賞を決定いたしました。

【議長】優良校・功労者・文部科学大臣賞は、各都道府県の推薦委員会から送られてきたものを、こちらで審査させていただいた結果であります。これについてご質問をいただければと思います。

### 6 学校体育振興会(「学体振」)について (浅田会長)

10月に(「学体連」と「学体振」間で)覚え書きを交換する段階になりました。今のところは大所の企業が5~6社で、「学体振」は会長がコロパインの社長・山本裕人氏、理事長がシューズアカデミー社長・小間井宏尚氏と決まり、各企業に働きかけをしております。どのような内容をやっていくかについてはこれからお知らせしていきたいと考えています。これに対して何かご質問がありましたら、お願いします。なければ本会議終了後行います50周年の記念事業について、深川副会長をお願いします。

### 7 50周年記念事業について (深川副会長)

本日は午後4時30分から本連合会の50周年の式典・祝賀会を行いますので、皆様方ぜひおそろいでご出席をお願いします。この事業は数年前から検討してきましたが、皆様からいろいろご意見を聞く中で、本日のような形になりました。また、本事業の一環として企画しました「50周年記念誌」という我が法人の歴史を表した冊子が出来上がりました。各都道府県の小史も網羅した誠に分厚いものになりました。「会報」の抜き刷り等も掲載しており、これを見れば学体連の歩みが目瞭然であります。すでにご案内を申し上げている通り、1冊2500円で本日より頒布させていただきます。祝賀会にご出席の方には贈呈いたしますが、ぜひ1冊でも多くご購入くださるよう、広く全国の先生方にご協力をお願いしたいと存じます。また、本日の式典で、私どもの事業に積極的に賛助いただきました企業の方々に、これまでの御礼とさらなるご援助をお願いする気持ちから、式典の席上で感謝状を贈呈する予定です。北海道学体連の皆様には、この事業を実施するうえで、格段なるご配慮とご協力を賜った次第です。皆様方にもご承知おきいただきたいと存じます。誠にありがとうございました。

【議長】50周年記念事業について何かご質問があればお願いします。なければ続きまして特別賛助会員を紹介させていただきます。

(特別賛助会員紹介)

【議長】時間の関係上ブロック会議は取りやめまし

て、幼稚園部会の立ち上げについて、調査結果と予めこちらからお願いしてあります6県の事例を紹介していただきたいと存じます。まず調査の結果について、考察も兼ねて、後藤常務理事をお願いします。

### 8 幼稚園部会の立ち上げについて一調査結果に基

ついて一 (後藤常務理事)  
調査の結果について資料4に基づき説明させていただきます。アンケートには、100%の回収率でお答えいただき、誠にありがとうございました。ここでは、各県の幼稚園教育の組織に関する現状、小・中・高等学校との交流の現状、研究活動の連携や交流を進めるうえでの問題点や課題、公立幼稚園と私立幼稚園の割合や活動状況について、さらに今後の各支部の計画や方向性について伺いました。まず、現在の各支部の状況ですが、わずか1支部ではありますが、支部内にはっきりと幼稚園部会が位置づけられ、相互交流や連携を図っているという県がございました。また、支部として組織が位置づけられてはいないが、実質的には交流をしているという支部が12ございました。一方で、位置づけられてはいるが実際は連携が進んでいない、あるいは位置づけられてもいないし、交流・連携が進められていないという県が合計34ありました。2番は幼稚園との連携・交流がある支部の具体的な事例ですが、(1)~(8)まであります。(1)は県学体連に幼稚園部会が加盟して組織が確立しているという例です。(2)~(7)は、体づくり推進大会や研究大会など、大会やイベントを契機として連携や交流が進められているという事例です。3は幼稚園部会立ち上げに向けて問題や課題となっている事項です。これも(1)~(2)までであり、たとえば「幼稚園では運動・体育領域が独立していないので、なかなか連携が図りにくい」「体育領域がないため、体育専門の担当者がいない」という問題点があがっています。また、「小・中・高の体育の先生は、幼稚園との連携の必要性に対する認識が薄いのではないか」「幼稚園組織を取り込むための具体的な手だてや糸口がない」といったご意見もありました。県によって事情はさまざまかと思いますが、私立幼稚園が多い県においては、幼稚園経営そのものに存亡がかかっているという事情もあって、運動遊びの研究の充実までは、なかなか手が回らない実情も見えてきました。幼稚園の先生方からは「学体連って何ですか? 説明してほしい」という質問がずいぶんありました。「運動面だけを強調した研究はやりにくい」「幼稚園が学体連に加盟してどんなメリットや必要性があるのか」「金銭的な負担がかかるのではないか」という意見も頂戴してお



## 幼稚園部会の立ち上げについて

—調査の結果などに関連して—

常務理事（荒川区立町屋幼稚園園長） 堀内 俊 雄



### 1 幼児期における運動の重要性

最近の子どもの健康に関する問題として、子どもたちの体力や運動能力の低下が心配され、中央教育審議会は子どもの体力低下問題に関する対応策を答申しました。これらの問題の背景には、今日の子どもの取り巻く環境の大きな変化があると考えられています。都市化は、地域生活の有様に影響を与え、核家族化や少子化、母親の就労の増大は家族生活のあり方に変化をもたらしています。さらに価値観の多様化はさまざまな新しい生活様式や生活スタイルを生んでいます。特に両親などの大人に依存した生活をしている幼児期の子どもにおいては、家庭での大人の生活の影響を大きく受けます。中でも大人の生活の夜型化の影響は大きく、幼児期の子どもの生活リズムや基本的生活習慣を乱す要因となっています。また、地域における遊び集団の構成が困難な状況やテレビ・ビデオ、ゲームなどに費やす時間の増大は、幼児を戸外から室内へと追い込むことになり、幼児期での遊びの減少へとつながります。そして、結果として子どもの体力や運動能力の低下を招くこととなります。

このような状況は、子どもの健全な発育を考えるうえで、憂慮すべきことです。なぜなら、健康の維持・増進にだけ配慮すればよい成人と違って、幼児の場合はそれに加えてさらに成長もしていかなければならないという課題があるからです。人が健康な生活を送るには運動・栄養・休養のバランスが大切です。幼児においては、日中よく体を動かして遊ぶことが食欲や熟睡を生み出すと言われています。いわゆる快動・快食・快眠のリズムであり、これを幼児期に習慣化することがその後の健康な生活を送るうえでよい影響を及ぼすこととなります。

次に、幼児の発達特性に目を向けてみると、3歳

から5歳までの幼児期においては、著しい身体の発達に伴い、運動諸機能が急速に発達する時期でもあります。スキヤモンの発達曲線によると、神経系の発達は4～5歳で80%以上の発育が完了するとされます。そのため、幼児期においては、動作の獲得や姿勢制御、バランス感覚などを養成する大切な時期にあり、体を使ってのさまざまな遊びや運動を十分に行わせることは、身体発達の過程の中で大変重要なことであると言えます。

### 2 幼稚園教育と運動遊び

学校における学習指導要領と同じように、幼稚園においては幼稚園教育要領で、指導のねらいと内容を領域別に定めています。健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域があり、運動と関連するのは、健康の領域です。この領域では、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける」ことをねらいとし、内容の中では、いろいろな遊びの中で十分に体を動かすこと、進んで戸外で遊ぶことの他に、健康への関心、危険防止や災害時の行動、さらに健康な生活リズムなど、総合的に示されています。

このように、幼稚園においては、「いろいろな遊びの中で体を動かす」「遊びを通して運動する」が基本にあり、学校での体育とは異なり、いわゆる「運動遊び」としての扱いとなっています。そのため、幼稚園においては、学校のように体育としての特設された時間がなく、総合的な活動の中で、「運動遊び」として取り組まれています。しかし、幼稚園によっては、それぞれの園の施設・設備や環境を生かした特色あるカリキュラムを作成し、運動を系統的に取り上げている園もあります。また、幼稚園教育要領の中では、運動種目の具体的な例示はあり

ませんが、ほとんどの園では、季節を考慮しながら、鬼遊び、固定遊具を使った遊び、器具・用具を使った遊び、ボールを使った遊び、走を中心とした運動、ゲーム、リズム、水遊び、自転車（一輪車・二輪車・三輪車）乗り、なわとびなどをバランスを考えながら取り入れています。

私は、公立の幼稚園長と小学校長を兼任しています。そのため、幼・小の両方の活動を日常的に目にしてはいますが、相互の関連性に気づくことが多いです。運動遊びをしている幼児の姿や何気ない動きの中に、小学校体育の基礎となる動きを発見したりします。そういった面で考えると、幼稚園で行われている運動遊びは、小学校体育につながる基礎的な動きづくり・体づくりとしての重要な部分であると感じています。

### 3 幼稚園部会立ち上げに向けての経過と現状

#### (1) 幼稚園部会立ち上げの目的と意義

これまで述べてきたように、子どもを取り巻く状況や環境の変化、子どもの体力や運動能力の低下、発達特性から見た幼児期の運動の重要性、学校体育とのかかわり等の観点から、幼稚園における教育活動の運動に視点を当てた研究を深めることは、大変意義があることです。また、体育としては未分化の基礎的段階である幼稚園の運動遊びに目を向けることは、学校体育の研究をさらに充実させることにつながるのだと考えます。学体連においては、浅田会長が長年にわたって幼児期の運動の重要性を提唱し、幼稚園部会の設立を各支部にお願いしてきたところです。昨年は、学体連創立50周年という節目の年でもあり、これを機にできるところから実現化していこうということになり、各支部の状況を調査し、各支部に対して具体的な働きかけをお願いしてきた経過があります。

#### (2) 調査結果から見た状況

昨年の7月から8月に、幼稚園部会立ち上げにかかわるアンケート調査を各支部にお願いしました。その結果と考察については、北海道大会の時の理事・評議員会の中で、資料にまとめ、報告させていただきました。また、今回の会報の議事録の中にも概要が記載されています。一部重複する部分もありますが、調査内容と結果を紹介します。

#### ◎アンケートの調査結果より（一部抜粋） 〔各支部の状況〕

幼稚園部会が位置づけされている。	1
幼稚園部会の位置づけはないが、研究活動の中で、部分的な交流がある。	1 2
幼稚園部会としての位置づけはされているが、研究活動の交流はない。	1
幼稚園部会の位置づけはなく、研究活動の交流もない。	3 3

#### —各支部の幼稚園との交流・連携の事例—

- 県学体連支部に、公立幼稚園協会・私立幼稚園協会が加盟し、公立幼・私立幼・小・中・高の各5校種の連携をめざし、活動を始めている。
- 県の研究発表大会や全国大会の開催の折に、幼稚園部会を設けて参加してもらっている。
- 幼稚園を特別会員として位置づけ、必要に応じて研究会に参加してもらっている。
- 毎年、開催している県体力づくり研究推進大会に幼稚園からも参加している。
- 県の研究大会を隔年で開催している。幼稚園・保育所の保育公開も、その都度、主催地区の考え方で、同時開催のケースが増えてきている。組織の連携についても進めている。
- 県学体連の中の女子体育連盟の中に、幼稚園部も一緒に位置づけ、実技研修会を実施している。
- 各地域ごとに課題に基づいた合同研修会を実施している。
- 体育の分野に限定しないで、幼・小の交流という形で、各地域ごとに相互交流会がもたれている。

#### 〔幼稚園部会立ち上げの課題・問題点〕

- 小中高とは研究の組織形態が違い、接点を取りにくい(行政側の所管、研究方法、公立私立による違い等)。
- 幼稚園では、体育領域が独立した研究領域ではなく、総合的な内容の研究が行われている。
- 幼稚園と小学校の交流・連携は、行政的課題でもあり、各地域ごとの幼・小の間では進ん

でいるが、教育全般についてであり、体育や運動面だけを取り上げての交流は難しい。

- 幼稚園側に、直接的な窓口となる体育専門の担当者がいない。
- これまで学校体育として取り組んできた経緯により、小中高側に幼稚園部会の必要性の認識が薄い。
- 幼稚園の研究内容が、小中高の体育を見通したものになっていないため、幼稚園側からの交流・連携の要望が出てこない。
- 日常の交流がないために、幼稚園の組織や研究の様子を把握できない。
- 幼稚園組織を取り込むための具体的な手だてや糸口がない。
- 研究発表会の時だけ、参加を呼びかけているが、継続的活動には至らない。
- 現在の小中高の組織を維持するのが手一杯で幼稚園まで拡大する余裕がない。
- 長年続いている組織の方向性を変えるのは難しい。組織として共通理解を深めていく必要がある。
- 幼稚園側に学体連の組織そのものが理解されていない。
- 幼稚園側にとって、運動面だけを取り上げた研究に抵抗感がある。  
(回答の中からの代表的な意見の一部抜粋です)

【今後の計画や方向性】

現在の幼稚園部会の組織を維持・充実させていく。	1
幼稚園部会立ち上げに向け、県支部としての議題に取り上げ、前向きに検討している。	8
幼稚園部会立ち上げについては、県支部の議題には取り上げていないが、目的や趣旨については賛成であり、今後、支部としてその方向をめざしたい。	10
状況が厳しく、幼稚園部会立ち上げの計画を考えていない。	16
幼稚園部会立ち上げは難しいが、現在行っている部分的交流を継続していく。	2
その他（無回答含む）	10



平成14年度第2回理事・評議員及び代表者会議  
(北海道・札幌市)

標記の会において、幼稚園部会立ち上げに関するアンケート結果の報告ならびに、三重県・秋田県・栃木県・東京都・山口県・長崎県より、現在までの取り組み状況について紹介がなされた（詳しくは本誌P26～29参照）。

4 今後の方向性と課題について

アンケート調査の結果からは、幼稚園部会の立ち上げに向けてのそれぞれの支部が抱えている事情や課題を把握することができました。また、それを克服しながら前向きな方向で進めていこうとする支部が多いことも確認できました。この状況を踏まえ、北海道大会の時の理事・評議員会で、学体連として次のことを提案し、確認されました。

- 幼稚園部会については、立ち上げが可能な支部から出発し、その数を少しずつ増やす方向をめざす。
- 幼稚園部会が立ち上がった支部、あるいは立ち上げに向かいつつある支部に対しては、学体連本部として支援していく。
- 研究優良校表彰に幼稚園の参加を考えていく。
- 全国大会の開催県においては、発表が契機となつて、幼稚園部会が継続して位置づくように取り組んでいく。
- 学体連主催の「幼児の運動遊び実技研修会」においては、幼稚園の研究組織との連携を図り、幼稚園教諭の参加の拡大を図っていく。

\* \*

その後、東京都において、本年度より学体連東京支部の中に、幼稚園部会が立ち上がりました。具体的な内容については、まだ模索中ではありますが、今後の取り組みが期待されます。各支部におかれましても、積極的な推進を重ねてお願いするところです。

東京支部における  
幼稚園部会立ち上げの経緯と今後

東京都支部会長(都立井草高等学校校長) 梅村和伸



東京都教育委員会が出した「東京都児童・生徒の体力テスト調査報告書」が示しているように、小・中学生の体力低下は明らかです。高校では今後2・3年は経過してみなければ正確なことは言えませんが、今までの低下傾向に少しブレーキがかかったとの発表がありました。小・中・高校を通して全体的に見れば、まだまだ喜ばしい状況には決してないと言えます。

思い出せば、我々が小学校の低学年のときは、毎日異年齢の仲間たちと、夕方暗くなるまで遊びに熱中していましたから、その遊びの中で自然に走る、跳ぶ、投げる等の運動に関する基礎的な力が培われていたと言えます。

しかし、今の幼稚園児や小学校低学年児童の毎日の生活を見ていると、習い事や早くも塾通いに忙しく、子供たちが群れて遊んでいる光景はほとんど見られなくなりました。そのような生活の様子が、幼稚園児や小学校低学年の児童の体力や体づくりに大きな課題を残し、またその状況がその後の小学校児童や中学生の体づくりに影響を与えていると言われているところです。

そこで、子供たちの望ましい身体的発達を適正に促す意味で、幼稚園や小学校低学年に在籍している時代やその両者の接続関係にスポットをあて、そのありようや両者の連携のあり方等を探索してみることは大変意義あることと考えています。

この種の問題が提起され出したのはかなり以前のことと理解していますが、これらの問題に正面から向かい合い、そのあるべき姿を具体的に求めようとする実践的な研究や開発等はいまだ未開発の部分であると考えます。

これらの状況に対して、その内容に関する研究や開発の提起は確かにありました。しかし、何分それらに関する実践的研究を直接行う、小・中・高校各校種の体育・保健体育研究会の研究は教科研究その

ものであり、それらの要請に応えていける状況にはありませんでした。

しかし、心底にはその状況を放置したままでよいのかという自問や、体力低下の現実に対する心配が強く存在していた、あるいはいることは確かです。

そこで、あえてその時期の遊びや運動に、より明確に着目することに意義を見出し、そして、その遊びや運動が身体や精神等に与える影響を研究することが小学校児童期やその後の時代の身体育成や体力づくりに影響力があると考え、この際小異を捨てて大同につく心境で、東京支部の中に幼稚園部会を東京支部評議会の賛同を得て立ち上げた次第です。

しかし、問題はこれからです。まず、研究組織を立ち上げたことによって、今後の研究に関する推進過程をどのように考えていくかを考えなければなりません。

つまり、どのように研究テーマを設定し、具体的にどのように研究を進めていくのか、幼稚園と小学校の研究の連携をどのように考え、その中での課題は何か、成果の検証はどのように行われるのか等、未知なる部分がたくさん我々を待っています。

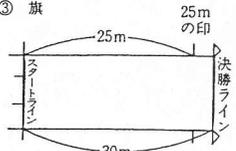
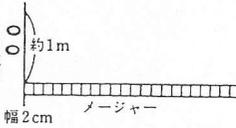
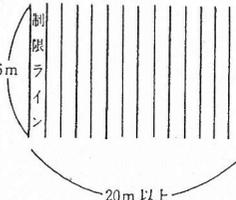
しかし、それらを一つひとつ具体的に乗り越えていくことによって、子供の身体的側面が見えてきて、対応策も具体的に立てていけるようになるのではないかと楽観的に考えています。

他県でもこの問題で悩まれているところが多いのではないかと推測しております。部会を立ち上げ、研究を連携の輪の中で進めていくことは間違いのないことと考えていますので、実践をしながら考えていく姿勢で、ゆったり進んでいくことではいかでしょうか。

ともに研究の輪をつくり、そしてその輪を広げながら、また先進県からのご支援をいただきながら、今後幼稚園部会を立ち上げた目的を求めていきたいと考えています。

### 幼児の体力・運動能力測定

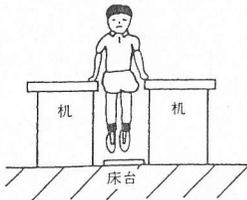
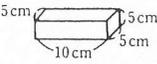
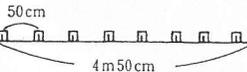
〔幼児の体力測定方法〕

種目	主たる体力要素	準 備	測定方法	記録	留意点
25 m 走 (秒)	敏しように性・瞬発力	① 30mの直走路を作り、25mのところ印を付けておく。 ② ストップウォッチ ③ 旗  ④ 決勝用テープ	① スタートラインを踏まないようにして、両足を前後に開き、「用意」の姿勢をとる。 ② 合図係りは、スタートラインの斜前方に立ち、「ヨーイ・ドン」の合図と同時に小旗を下から上に上げてスタートさせる。 ③ テープを30mのゴールラインのところまで張り、そこまで疾走する。 <説明> 「線を踏まないようにして立ちます。ヨーイと言ったら片方の足を後ろに引きます。そしてドンと言って旗を上げたら、向こうのテープまで一生懸命に走りましょう。」	① 旗が上がってから、25m地点を通過するまでの時間を1/10秒単位で測る。 ② 1回だけ行う。	① 男子同士、女子同士2～3人ずつ走らせる。 ② はげみが出るように、周りで応援させる。
立幅跳び (cm)	瞬発力	① メジャー(1.5m～2m)。 ② 床に幅2cmの踏み切り線をひき、その線に垂直に目盛線(メジャー)を引く。 ③ 被験者は靴下などを脱ぎ、はだしになる。 	① 踏み切り線を踏まないようにして両足をわずかに離して立ち、両足同時踏み切りて出来るだけ遠くへ跳ぶ。 ② 二重踏み切りや片足踏み切りをしないように示範する。 ③ 二重踏み切りや片足踏み切りはやり直しをさせる。 <説明> 「この線を踏まないようにして手をふって両足をいっしょにして遠くへ跳びましょう。このようになったら(示範して)やり直します。」	① 踏み切り線と着地した地点(踏み切り線は近い方の足の踵の位置)との最短距離をcmで測定する。 ② 2回測定しよい方を記録する。	① 踏み切る時、手を振って反動を利用させる。 ② 踏み切る時、「1,2,3」「それ!」など声を掛けて励まします。
ソフトボール投げ (m)	瞬発力・調整力	① ソフトボール教育1号(周囲26.2～27.2cm、重さ136～146g)4個以上。 ② 巻尺 ③ 1m間隔で、投球線を引いておく。 	① 両足を前後に開き、前足が制限ラインを踏まないようにして立つ(右手投げは左足が前になるようにして立つ)。 ② 制限ラインを踏んだり踏み越したりすることなく助走をしてオーバースローで遠くへ投げる。 <説明> 「線を踏まないようにしてボールを持っている手と反対の方の足を前に出します。そして、出来るだけ高く遠くへ上から投げましょう。」	① ボールの落下地点を確かめ、制限ラインからの最短距離をm単位で測定する。(m未満は切り捨てる)。 ② 2回続けて投球し、よい方を記録する。	

近藤充夫・杉原隆  
(東京教育大学体育心理学研究室「幼児運動能力調査測定方法」1973)

文部科学省が毎年実施している「体力・運動能力調査」の結果から、中央教育審議会では子どもの体力低下を指摘し、幼稚園・学校などでの対応策を検討しているが、幼児の具体的なデータがないのが現状。

昨年(2002年)学体連主催による「幼児の運動遊び」の講習会において、近藤充夫講師(東京学芸大学名誉教授)により、幼児の運動能力調査の方法と結果が報告された。(幹事・三浦美智子)

種目	主たる体力要素	準 備	測定方法	記録	留意点
体支持持続時間(秒)	筋力・持久力	① 被験者が立って腕を体に添って下げた時にひじの高さぐらいの机2個を肩幅と同じ間隔に開いておく。 ② ストップウォッチ 	① 机と机の間に被験者を立たせる。 ② 「用意」の合図で、両腕を上げ、手をそれぞれ机の上におく。 ③ 「始め」の合図で、両腕を伸ばしながら足を床から離す。 ④ 両腕で体重を支えられなくなるまで続ける。 ⑤ 次の場合は失敗であることを示範する。 ⑦ 腕が曲った時 ⑧ 掌以外の身体どの部分でも机や床に触れた時 <説明> 「両手を机の端のところに置きます。ヨーイ・ハジメで、腕を伸ばして足を床から離します。そのまま出来るだけ長い間ぶら下がっていきましょう。足を振ると早く落ちます。このようになったら、(示範して)おしまいです。」	① 持久力のテストであるから1回だけ行う。 ② がんばらせるために、激励の言葉を掛けて励ます。	
両足連続跳び越し(秒)	調整力・敏しように性	① 巻尺 ② 積木(幅5cm、高さ5cm、長さ10cm)を10個。  ③ ストップウォッチ ④ チョーク(ビニールテープ) 	① 4m50cmの距離を、50cmごとに印をつけ、その印が積木の中心になるようにして10個の積木を並べる。 ② 被験者を最初の積木の前に立たせ、「始め」の合図で、両足をそろえて付け、10個の積木を一つ一つ正確にそして速く連続して跳び越す。 ③ 次の場合は失敗であることを示範する。 ④ 両足をそろえて付けて、跳ばない時。 ⑤ 積木を2個以上1度に跳び越した時。 ⑥ 積木の上に着いたり、けとばして散乱させた時。 <説明> 「両足をそろえて付けて下さい。そして積木の一つずつお休みしないで、次々と跳び越しましょう。このようになった時は(示範)やり直します。」	① 失敗せずに積木10個を跳び終わるまでの時間を1/10秒単位で測定する。 ② 2回行い記録のよい方をとる。 ① 速さだけを強調せず、正確さをまず強調すること。 ② 「お休みなして跳ぶ」「うさぎさんのように跳ぶ」などの表現で跳び方を示してもいい。	

【幼児の運動能力基準表 (1997版)】

種目	評定点	男 児				女 子					
		4歳前半	4歳後半	5歳前半	5歳後半	4歳前半	4歳後半	5歳前半	5歳後半		
25m走 (秒)	5 4 3 2 1	~6.7 6.8~7.4 7.5~8.2 7.3~8.6 9.7~	~6.3 6.4~6.9 7.0~7.6 7.7~8.6 8.7~	~6.0 6.1~6.5 6.6~7.2 7.3~8.2 8.3~	~5.7 5.8~6.1 6.2~6.8 6.9~7.7 7.8~	~5.4 5.5~5.8 6.0~6.5 6.4~7.0 7.1~	~5.4 5.5~5.8 6.0~6.5 6.4~7.0 7.1~	~6.1 6.2~6.7 6.8~7.4 7.5~8.4 8.5~	~5.8 5.9~6.3 6.4~6.9 7.0~7.9 8.0~	~5.6 5.7~6.1 6.2~6.6 6.7~7.3 7.4~	~5.5 5.6~6.0 6.1~6.5 6.6~7.2 7.3~
立ち幅 跳び (cm)	5 4 3 2 1	105~ 88~104 70~87 49~69 0~48	116~ 99~115 107~120 60~80 0~59	121~ 107~120 90~106 67~89 0~66	133~ 116~132 99~115 80~98 0~79	139~ 124~138 106~123 85~105 0~85	144~ 128~143 110~127 89~109 0~88	112~ 96~111 80~95 61~79 0~60	123~ 106~122 88~105 70~87 0~69	129~ 112~128 95~111 78~94 0~77	133~ 115~132 99~114 79~98 0~78
ソフト ボール 投げ (m)	5 4 3 2 1	6~ 4~5 3 2 0~1	7~ 5~6 3~4 2 0~1	8~ 6~7 4~5 3 0~2	10~ 7~9 5~6 3~4 0~2	12~ 9~11 6~8 4~5 0~3	13~ 10~12 6~9 4~5 0~3	6~ 4~5 3 2 0~1	7~ 5~6 4 3 0~2	8~ 6~7 4~5 3 0~2	9~ 7~8 5~6 3~4 0~2
両足連続 跳び越し (秒)	5 4 3 2 1	~5.4 5.5~6.6 6.7~9.4 9.5~16.4 16.5~	~4.8 4.9~5.9 6.0~8.0 8.1~12.6 12.7~	~4.6 4.7~5.4 5.5~6.9 7.0~10.9 11.0~	~4.3 4.4~5.0 5.1~6.2 6.3~9.0 9.1~	~4.1 4.2~4.8 4.9~5.8 5.9~7.8 7.9~	~4.0 4.1~4.7 4.8~5.5 5.6~7.6 7.7~	~4.7 4.8~5.6 5.7~7.0 7.1~10.5 10.6~	~4.4 4.5~5.2 5.3~6.2 6.3~8.8 8.9~	~4.2 4.3~4.9 5.0~5.9 6.0~7.7 7.8~	~4.2 4.3~4.8 4.9~5.6 5.7~7.2 7.3~
体支持 持続時間 (秒)	5 4 3 2 1	47~180 22~46 9~21 3~8 0~2	65~180 31~64 14~30 4~13 0~3	85~180 44~84 20~43 7~19 0~6	108~180 54~107 27~53 12~26 0~11	122~180 64~121 32~63 14~31 0~13	161~180 79~160 39~78 17~38 0~16	86~180 32~68 15~31 7~18 0~6	111~180 56~110 28~55 10~27 0~9	127~180 65~126 33~64 16~32 0~15	129~180 73~128 38~72 16~37 0~15
捕 球 (回)	5 4 3 2 1	7~10 4~6 1~3 0	9~10 5~8 2~4 1 0	10 7~9 4~6 1~3 0	10 8~9 5~7 2~4 0~1	9~10 6~8 3~5 0~2 0~3	10 7~9 4~6 0~3	9~10 6~8 3~5 1~2 0	10 8~9 4~7 1~3 0	10 9 6~8 2~5 0~1 0~2	9~10 8~9 6~8 3~5 0~2

(杉原隆, 近藤充夫, 森司朗, 吉田伊津美「幼児の運動能力判定基準と、園・家庭環境および遊びと運動発達の関係」(体育の科学社, 1999))

# Gakutairen 本部だより

## 平成14年度 常務理事会の議事摘要

副理事長 三原 忠彦

平成14年度の常務理事会の議事摘要は以下の通りです。

### 1401回常務理事会 (H14.4.23 火)

- 全国大会 (北海道大会) について (北海道実行委員会からの質問への回答の審議)
- 第1回理事・評議員会の議事内容と役割分担について審議
- 研修会のプログラムについて予定の確認
- 13年度事業報告及び収支決算報告の確認
- 14年度事業計画 (案) と収支予算 (案) の審議

### 1402回常務理事会 (H14.6.21 金)

- 理事の異動の紹介と役員の分掌確認
- 14年度特別行事の作業日程等の確認
- 月刊誌に代わるものについて協議
- 研修会, 会報39号, パソコン購入等の事項について確認

### 1403回常務理事会 (H14.8.1 木)

- 学体振の発足・経緯と今後の課題について協議
- 50周年記念事業進捗状況の確認 (記念誌についてを中心に)
- 優良校・功労者表彰の審査結果の確認
- 支部行事の調査内容について報告了承

### 1404回常務理事会 (H14.9.5 木)

- 14年度第2回理事・評議員会の議題と分掌について審議
- 第41回全国大会本部役員の予定表確認
- 幼稚園部会の立ち上げについて報告
- 文部科学大臣賞の審査結果の報告了承
- 研究助成金の申請, 審査結果の報告了承

### 1405回常務理事会 (H14.10.1 火)

- 北海道大会の準備・担当者の確認
- 50周年記念式典・祝賀会の次第確認
- 第2回理事・評議員会の議題と役割分担の確認

### 1406回常務理事会 (H14.11.12 火)

- 第2回理事・評議員会の議事要旨の確認
- 第41回大会 (北海道大会) の反省について意見交換
- 50周年記念誌の頒布・贈呈等の状況報告
- 中高の部研修会実施計画の報告
- 学体振の資料について学体連の意見協議

### 1407回常務理事会 (H15.1.9 木)

- 50周年記念誌の頒布・贈呈状況の報告及び残部の扱いについて協議
- 文部科学省・三重県・本部の三者の話し合いについて報告
- 会報40号の編集について確認
- 15年度の研修会について取り組み状況報告
- 15年度第1回理事・評議員会の開催日程協議

### 1408回常務理事会 (H15.2.10 月)

- 15年度第1回理事・評議員会の開催について, 日時・場所・開催通知の確認
- 優良校・功労者の推薦依頼の検討並びに確認
- 文部科学省との話し合い (学体振関係) の報告と意見交換
- 15年度の研修会の内容等進捗状況の報告

### 1409回常務理事会 (H15.3.6 木)

- 最優秀校・優良校・功労者の推薦依頼の確認
- 文部科学省大臣賞の申請について確認
- 文部科学大臣宛14年度報告書の項目確認
- 15年度の事業計画の説明確認
- 三重大会の指導助言者話し合い経過報告

## 平成15年度 全国学校体育実技研修会開催要項

理事長 田川 利賢

### 幼稚園・保育園の部

- (1) 研修テーマ  
「しなやかな心と体の発達を促す運動遊び」
- (2) 内容・講師  
①最近の幼児の体力・運動能力とこれからの体力づくり(講義)  
…東京学芸大学名誉教授 近藤充夫氏  
②巧技台を工夫して動きづくりを考える(実技)  
…東京学芸大学名誉教授 近藤充夫氏  
③ゲームから動きづくりを考える(実技)  
…日本女子大学教授 岩崎洋子氏  
④リズム運動・表現運動から動きづくりを考える(実技) …鶴見大学短期専任講師 朴 淳香氏
- (3) 日時 平成15年8月7日(木)・8日(金)
- (4) 会場  
日本女子大学体育館・日本女子大学附属豊明小学校体育館(JR山手線・目白駅徒歩15分, 地下鉄有楽町線・護国寺駅徒歩10分)

- (5) 参加費 4,000円(学生2,000円・資料代を含む)
- (6) 定員 80名
- (7) 申し込み  
(財)日本学校体育研究会事務局(郵送or Fax)  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1  
国立オリンピック記念青少年総合センター内  
Fax 03-3465-7464
- (8) 参加費振り込み先(郵便局)  
口座名義 (財)日本学校体育研究会事務局  
口座番号 00130-2-563814  
\*郵便局備え付けの振込用紙にて, 事前にお振り込みください。
- (9) 問い合わせ  
荒川区立第七峡田小学校校長・堀内俊雄  
TEL 03-3895-3176

### 小学校の部

- (1) 研修テーマ  
「徹底研修, 実技と研究協議」
- (2) 内容・講師  
①基本の運動…大阪教育大学教授 赤松喜久氏  
②ゲーム…東京学芸大学助教授 鈴木秀人氏  
③体づくり運動…新潟大学教授 佐藤勝弘氏  
④器械運動…東京学芸大学助教授 水島宏一氏
- (3) 日時  
平成15年7月31日(木)・8月1日(金)
- (4) 会場  
千代田区立昌平小学校(JR山手線・秋葉原駅徒歩7分, JR中央線・お茶の水駅徒歩10分, 地下鉄銀座線・末広町駅徒歩5分)

- (5) 参加費 4,000円(資料代を含む)
- (6) 定員 100名
- (7) 申し込み  
練馬区立早宮小学校 服部鋭司校長(郵送or Fax)  
〒179-0085 東京都練馬区早宮4-10-17  
Fax 03-5984-0934
- (8) 参加費振り込み先(練馬区光が丘郵便局)  
口座名義 全国学校体育実技研修会事務局  
服部鋭司  
口座番号 00100-2-480813  
\*郵便局備え付けの振込用紙にて, 事前にお振り込みください。

### 中学校・高等学校の部

- (1) 研修テーマ  
「バスケットボールを使ったハンマー投げ及びターボジャボを使ったやり投げの基礎技術の習得」
- (2) 内容・講師  
陸上競技 ハンマー投げ・やり投げ  
…茨城県立土浦湖北高等学校教諭 山崎祐司氏
- (3) 日時 平成15年7月25日(金)
- (4) 会場  
東京都立つばさ総合高等学校グラウンド(京浜急

- 行・大鳥居駅徒歩8分)
- (5) 参加費 無料
- (6) 申し込み  
東京都立大学附属高等学校(定) 杉山正明(Fax)  
〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2  
Fax 03-3724-7041  
Tel 03-3723-9966

## 平成15年度役員一覧表

H.15.6.28現在

担当職務	氏名	現職・職名	電話	担当職務	氏名	現職・職名	電話
名誉会長	大石三四郎	筑波大学名誉教授	自 0480-65-7813	常務理事	佐山 義昭	板橋区立志村第二中学校校長	自 0422-54-6132
会長	浅田 隆夫	筑波大学名誉教授	自 03-3312-1891	同	井上アヤ子	創価大学教育学部教授	自 042-573-0529
副会長	金森 久	元東京都立九段高等学校校長	自 048-861-6855	監事	大畑 重喜	元筑波大学附属ろう学校副校長	自 0471-74-7150
同	深川 長郎	国士館大学文学部教授	自 03-3321-2726	同	片岡 曉夫	国士館大学体育学部教授	自 03-3303-6649
理事長	田川 利賢	元東京農工大学教授	自 0422-44-7987	同	森 知高	福島大学教育学部教授	自 0245-45-3237
副理事長	三原 忠彦	元府中市教育委員会体育課課長	自 0426-65-3165	幹事	古川 浩洋	都立工業高等専門学校助教	自 03-3885-4156
同	友添 秀則	早稲田大学人間科学部教授	自 042-325-8441	同	三浦美知子	竹早教員保育士養成所	自 03-5749-7170
常務理事	後藤 一彦	荒川区立ひぐらし小学校校長	自 0489-22-2084	事務局	小野 良子	学体連事務局主任	自 03-3390-7658
同	堀内 俊雄	荒川区立町屋幼稚園園長	自 0297-74-7241	同	酒井志百里	同 副主任	自 042-527-7270

No.	県名	理事氏名	現職・職名	電話	評議員氏名	現職・職名	電話
1	北海道	宮崎 岩次	札幌市立厚別東小学校校長	011-898-4650	西村 正	札幌市立山鼻南小学校校長	011-532-8340
					大野 憲義	北海道恵庭南高等学校校長	0123-32-2391
2	青森				関合 信孝	青森県立八戸工業高等学校校長	0178-22-7348
3	岩手						
4	宮城				高木 力雄	宮城教育大学教授	022-214-3461
5	秋田				佐々木信吉	秋田市立飯島小学校校長	018-845-0377
6	山形				斎藤 俊昭	山形県立山形中央高等学校校長	023-641-7311
7	福島				安藤 重男	梁川町立梁川中学校校長	024-577-2161
8	茨城				小室 洋	茨城県立多賀高等学校校長	0294-33-0044
9	栃木	田中 一宏	栃木県立日光高等学校校長	0288-53-0264	中山 正孝	宇都宮市立陽南中学校校長	028-658-1293
10	群馬				永島 武	群馬県立館林高等学校前校長	0276-72-4307
11	埼玉				桐生 貞雄	埼玉県立浦和高等学校校長	048-886-3000
12	千葉	久保 浩二	千葉県立松戸南高等学校校長	04-7391-2849	東間 義夫	千葉市立末広中学校校長	043-265-1818
					島宮 道男	東京都立芦花高等学校校長	03-5315-3322
					斎藤 滋樹	世田谷区立松沢中学校校長	03-3303-7381
13	東京	梅村 和伸	東京都立井草高等学校校長	03-3920-0319	菅原 健次	北区立としま若葉小学校校長	03-3912-1458
					栢沼 行雄	小田原市立白鷗中学校校長	0465-34-1736
14	神奈川	山本 博	横須賀市立神明小学校校長	046-834-4315	齋藤 悠太郎	横浜市立神大寺小学校校長	045-491-9478
15	山梨	根津 陽二	甲府市立東中学校校長	055-233-1379	三井 忠明	甲府市立甲府商業高等学校教頭	055-241-7511
16	長野				小林 健孜	長野市立榴花中学校校長	026-226-1804
17	新潟				西澤 忠夫	出雲崎町立出雲崎小学校校長	0258-78-2205

No	県 名	理事氏名	現 職・職 名	電 話	評議員氏名	現 職・職 名	電 話
18	富 山	森本 清隆	八尾町立八尾中学校校長	076-455-2220	児島 博史	砺波市立砺波東部小学校教頭	0763-32-2271
19	石 川				水野 郁夫	金沢市立夕日寺小学校校長	076-252-8634
20	福 井				中野 藤諭	福井市明倫中学校校長	0776-36-3826
21	岐 阜				岩田 薫	岐阜県立岐阜三田高等学校校長	058-237-5331
22	静 岡				鈴木 敏彦	静岡県立富士宮高等学校校長	0544-23-1124
23	愛 知				天野 孝雄	愛知県立松平高等学校校長	0565-58-1144
					渡邊 佑	名古屋市長笠寺小学校校長	052-821-5188
24	三 重	瀬古 淳二	三重県立みえ夢学園高等学校校長	059-226-6317	杉本 吉弘	鈴鹿市立大木中学校校長	0593-85-0316
25	滋 賀				藤原 一磨	高島町立高島小学校校長	0740-36-1106
26	京 都	橋戸 良行	京都市立双ヶ丘中学校校長	075-463-8165	荻野 隆三	舞鶴市立岡田下小学校校長	0773-82-0024
27	大 阪	高橋 庸	大阪府立久米田高等学校校長	0724-43-6651	小野 邦明	茨木市立沢池小学校校長	0726-25-6300
					白石 真二	大阪市立我孫子中学校校長	06-6697-8161
28	兵 庫	中嶋 守	兵庫県立川西緑台高等学校校長	0727-93-0361	濱田 浩嗣	兵庫県教育委員会事務局体育保健課主幹	078-362-3787
					浅井 伸行	兵庫県教育委員会事務局体育保健課学校体育係長	//
29	奈 良	辻本 丈夫	奈良県立玉寺工業高等学校校長	0745-72-4081	粕田 保	香芝市立二上小学校校長	0744-43-7345
30	和歌山				西口 政雄	和歌山市立高積中学校校長	073-477-0595
31	鳥 取				小谷 知載	佐治村立佐治中学校校長	0858-89-0840
32	島 根				小豆澤 盾	松江市立第三中学校校長	0852-21-0531
33	岡 山				宗高 平八	岡山市立京山中学校校長	086-254-2797
34	広 島	中山 龍興	広島市立袋町小学校校長	082-247-9241	河野 一則	広島市立可部小学校教頭	082-814-2428
35	山 口				佐倉弘之甫	山口県立徳山養護学校校長	0834-25-5378
36	徳 島	村山 一行	徳島県立城西高等学校校長	088-631-5138	山本 貴春	徳島県立城ノ内高等学校教諭	088-633-1603
37	香 川				溝淵 利博	香川県立高松高等学校校長	087-831-7251
38	愛 媛				森 晴光	松山市立余土小学校校長	089-972-0322
39	高 知				葛目 英男	南国市立岡豊小学校校長	088-862-0022
40	福 岡	図師 靖範	福岡市立青葉中学校校長	092-691-9386	鈴木 文博	福岡市立内野小学校校長	092-804-2207
					加留部征男	福岡県立水産高等学校校長	0940-52-0158
41	佐 賀	古賀 和彦	佐賀市立城南中学校校長	0952-24-4338	島 一満	佐賀市立城南中学校教諭	0952-24-4338
42	長 崎				松田 克彦	長崎市立小島中学校校長	095-821-9125
43	熊 本				近藤 亨	熊本県立甲佐高等学校校長	096-234-0041
44	大 分				山本 伸子	大分県立聾学校校長	097-543-2047
45	宮 崎				帖佐 利昭	宮崎県立宮崎南高等学校校長	0985-51-4109
46	鹿児島	石踊 政昭	鹿児島県立鶴丸高等学校校長	099-251-7387	岩元 賢治	鹿児島市立甲南中学校校長	099-254-9155
47	沖 縄				宮城 初男	那覇市立石田中学校校長	098-832-7308

# Gakutairen 事務局だより

## 一般賛助会員一覧

### 【平成13年度賛助会員（追加者）】

一般賛助会費（1万円）	千葉 菅 各 好 男	福 井 野 口 つぎ代	島 根	石 倉 國 男	佐 賀 鶴 池 國 幸
茨 城 藤 井 伸 二	新 潟 毛 原 亮 照	//	齊 藤 優	岡 山 森 本 昭 洋	大 分 吉 田 征 四 郎
栃 木 栗 田 和 行	石 川 三 引 義 晴	岐 阜 酒 井 鉄 男	愛 媛	阿 部 由 美 子	宮 崎 田 中 久 光

一般賛助会費（5千円）	秋 田 鈴 木 誠	群 馬 鳩 山 定 次	石 川 中 森 智	大 阪 池 田 晴 子				
北 海 道 石 原 金 治	山 形 奥 山 利 夫	千 葉 鈴 木 純 也	福 井 前 田 和 子	兵 庫 西 村 幸 雄				
//	高 橋 秋 男	//	梅 本 俊 芳	//	面 高 正 孝	静 岡 岡 村 福 彦	//	桑 形 宗 光
青 森 川 村 諭	福 島 鈴 木 仁	//	大 野 武	愛 知 稲 垣 幸 好	鳥 取 三 浦 三 弘			
岩 手 齊 藤 誠	//	鈴 木 勇	東 京 醍 醐 潔	滋 賀 勝 見 一 寛	福 岡 古 賀 義 次			
//	四 戸 孝 丸	茨 城 大 久 保 邦 男	神 奈 川 山 崎 勝	京 都 水 谷 一 成	長 崎 久 米 克 業			
秋 田 國 井 和 男	栃 木 大 貴 隆 一 郎	長 野 川 村 良 三	大 阪 中 井 馨	熊 本 高 本 勝				

### 【平成14年度賛助会員】

一般賛助会費（2万円）	
愛 知 多 湖 実 松	

一般賛助会費（1万円）	福 島 深 谷 秀 三	千 葉 正 司 博	島 根 久 保 田 稔	福 岡 青 柳 好 晴
北 海 道 宮 崎 岩 次	//	吉 野 純 一	神 奈 川 櫻 井 貞 久	岡 山 森 本 昭 洋
//	川 端 恵 美 子	//	佐 藤 勇	福 井 斎 藤 優
青 森 内 山 邦 彦	茨 城 湯 本 孝	滋 賀 井 関 正 和	山 口 三 井 裕	//
宮 城 及 川 勝 友	群 馬 高 橋 祥 夫	兵 庫 杉 山 圭 子	//	阿 野 尚 之
山 形 塚 本 相 玄	//	奈 良 泰 男	奈 良 鎌 田 正 也	愛 媛 阿 部 由 美 子
//	佐 藤 充 男	千 葉 海 保 教 之	島 根 渡 紀 彦	//
				今 井 勝 範
				沖 縄 波 照 間 三 子

一般賛助会費（5千円）	山 形 奥 山 利 夫	群 馬 鳩 山 定 次	福 井 前 田 和 子	兵 庫 西 村 幸 雄
北 海 道 高 橋 秋 男	//	梅 本 俊 芳	千 葉 鈴 木 純 也	静 岡 岡 村 福 彦
青 森 川 村 諭	福 島 鈴 木 仁	//	面 高 正 孝	滋 賀 勝 見 一 寛
岩 手 四 戸 孝 丸	//	鈴 木 勇	神 奈 川 山 崎 勝	京 都 水 谷 一 成
秋 田 國 井 和 男	茨 城 大 久 保 邦 男	長 野 川 村 良 三	大 阪 中 井 馨	
//	鈴 木 誠	栃 木 大 貴 隆 一 郎	石 川 中 森 智	//
				池 田 晴 子

## 事務局からお願い

### 1 書類等の提出

年度初めの書類は、前年度の事務局ならびに県教育委員会宛に送付いたしますので、連絡等よろしくお願いたします。会長・事務局等が変わられた場合には、速やかにその旨をお知らせください。また、書類等がお願いした期日までに提出できない場合には、必ず事務局までご連絡ください。

### 2 分担金等の納入方法

- ① 分担金
- ② 全国学校体育研究大会紀要（15年度三重大会）

### の申し込み

- ③ 全国学校体育実技研修会（幼稚園・保育園の部）の申し込み
  - ④ 50周年記念誌の申し込み
  - ⑤ 一般賛助会費
- 以上に関しては、すべて郵便振込でお願いいたします。

口座番号 東京 00130-2-563814  
 口座名義 (財) 日本学校体育研究連合会事務局

### 3 特別賛助会員団体会費の納入方法

特別賛助会費は、銀行振込でお願いいたします。  
振込宛先 東京三菱銀行 新宿中央支店  
普通口座 5230569

口座名義  
(財)日本学校体育研究連合会 会長 浅田隆夫  
4 事務局開局日時  
火曜・木曜・金曜日 12:00~16:00

Tel 03-3465-3954  
Fax 03-3465-7464  
Eメール gakuaitaren@msb.biglobe.ne.jp

事務局が留守の場合には、留守番電話に用件・ご連絡先等を録音していただくか、ファックス・メールにてご用件をお知らせください。折り返しご連絡いたします。

### 50周年記念誌頒布のお知らせ

(財)日本学校体育研究連合会では、50周年記念事業の一環として、「50周年記念誌」を刊行いたしました。本誌の内容は以下の通りですが、本連合会の歩みがひと目でわかり、第1回からの全国大会研究テーマ一覧(分科会を含む)、全会報(縮小版)等、大変好評をいただいております。

頒布ご希望の方は郵便局備え付けの振込用紙にて、「50周年記念誌」と明記のうえ、下記口座までお振込みください。即日、宅配便(佐川急便)にて送付いたします。

口座番号 東京 00130-2-563814  
口座名義 (財)日本学校体育研究連合会事務局



### 50周年記念誌

A4判 440頁  
頒布価格  
2,500円  
(送料サービス)

#### 目 次

#### 第I章 財団法人日本学校体育研究連合会の歩み

- I 財団法人日本学校体育研究連合会小史  
(財)日本体育指導者連盟  
(財)日本学校体育研究連合会の設立  
(財)日本学校体育研究連合会の沿革
- II 財団法人日本学校体育研究連合会の事業  
全国学校体育研究大会  
全国学校体育研究優良校表彰  
全国学校体育研究文部科学大臣賞(最優秀校)表彰  
全国学校体育研究功労者表彰  
全国学校体育実技研修会
- III 都道府県学校体育研究連合会小史

#### 第II章 全国学校体育研究大会の歩み

- I 発展のあしあと  
はじまり 変遷 研究大会の主題の変遷  
部会主題の変遷
- II 学習指導要領の変遷  
通史 学習指導要領に見られる3つの時代的枠組み 学校体育と総則体育の関係
- III 研究の成果

- 幼稚園部会 小学校部会 中学校部会  
高等学校部会 特殊教育諸学校部会  
まとめと課題

#### IV 全国学校体育研究大会関連資料 体育関係学習指導要綱・学習指導要領一覧

全国学校体育研究大会分科会主題および研究概要

#### 第三章 財団法人日本学校体育研究連合会の回顧と展望

- I 「これまで」  
一初代から4代会長の偉大な業績一
- II 「いま」一5代から6代会長の業績一
- III 「これから」  
一学校体育問題と授業研究の充実に向けて一

#### 第四章 資料

- I 歴代役員
- II 会則  
財団法人日本体育指導者連盟寄附行為  
財団法人日本学校体育研究連合会寄附行為(設立時)  
財団法人日本学校体育研究連合会寄附行為(現行)  
全国学校体育研究大会開催基準要項  
全国学校体育研究優良校・功労者表彰要項  
研究助成募集要項  
加盟団体分担金  
賛助会員に関する規定  
体育用品推薦要項  
財団法人日本学校体育研究連合会象徴旗
- III 教育・研究に関する図書・出版物  
図書 機関誌

付録 学体連会報

平成15年6月27日

### 全国学校体育研究大会・研究協議会等 学体連主催行事に対する特別賛助会員関係の 広告・展示等の扱いについて(お願い)

(財)日本学校体育研究連合会  
会長 浅田 隆夫

従来、標記大会の研究紀要等の出版物には学体連特別賛助会員関係の広告を、本部の責任において掲載してまいりました。会報についても同様であります。

最近、大会開催にあたり、開催地実行委員会から特別賛助会員に対し、有料での広告掲載や展示の依頼が行われている事例があります。

については、学体連として年間150万円以上拠出の特別賛助会員については従来通りの扱いとし、他の特別賛助会員については開催地実行委員会とご協議のうえ、なるべく開催地実行委員会の要望にお応え賜うようお取り計らいいただきたく、ここにお知らせする次第です。なにとぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 日本学校体育振興会(通称学体振)とは

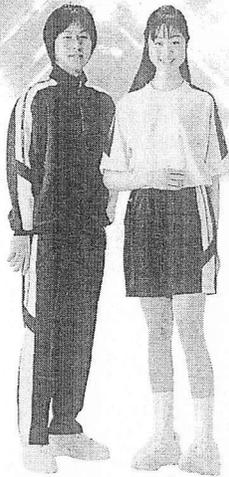
(財)日本学校体育研究連合会を通じて、学童・生徒の体力作りに貢献する異業種企業の集まりです。

### ◎発起人企業

- 学習研究社株式会社 東京都大田区仲池上1-17-15
- 児島株式会社 岡山県倉敷市児島小川2-4-60
- 株式会社ジェティービー 東京都品川区東品川2-3-11
- 事務局 株式会社シューズ・アカデミック

大阪府門真市末広町40-5 アドラブール古川橋501  
TEL06-6780-6801

# 素敵なスポーツフィールド、地球のために。



このマークの付いた商品は、エコマークの認定をうけています。

**Columbine**

コロンバインスクールスポーツウェア

(エコマーク商品認定番号) 第00103019号

(財)日本学校体育研究連合会特別賛助会員  
(財)日本学校体育研究連合会推薦品

児島株式会社は、エコライフを応援します。

児島(株)では、スクールスポーツウェアの新しい素材として、ペットボトルを再利用したリサイクルマテリアルを採用しています。小さくフレークにされたペットボトルはファイバー化され、さまざまなポリエステル繊維として混紡。機能的にも、従来の同混率素材とほとんど変わらず、地球資源の保全にも役立ちます。また、子供たちには、エコ教育のひとつとして大きな意味があり、教育的な見地から高い評価を得ています。

児島株式会社

本社 / 岡山県倉敷市児島小川2-4-80  
関東営業所 / 埼玉県さいたま市上小町1085  
盛岡営業所 / 岩手県盛岡市流通センター北1-4-18  
URL: <http://www.netlaputa.ne.jp/~kojima/>

TEL(086) 472-2830  
TEL(048) 642-5883  
TEL(019) 638-7501  
email: info@kojima-gp.co.jp



ISO 9000 1 認証取得  
JQA-QM7340

## 新体カテスト集計・分析システム

(文部省発表新体カテスト準拠)

**SPORTS TEST**

集計・分析処理料金(1人分) 220円(税込)

みつめたい教育と未来  
**第一学習社**

学体連特別賛助会員

(東京) 〒116-0013 荒川区西日暮里2-50-5 ☎ 03-3891-9802  
(大阪) 〒564-0044 吹田市南金田2-19-18 ☎ 06-6380-1391  
(広島) 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14 ☎ 082-234-6800  
札幌・仙台・小山・横浜・名古屋・神戸・福岡・新潟・金沢・沖縄

## 学研式・体カテスト診断システム

(文部科学省新体カテスト実施要項準拠)

一人ひとりの健康的な生活づくりに活用できるデータをラインアップ!



| 個人判定票 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 姓名    | 性別    | 年齢    | 身長    | 体重    | BMI   | 体脂肪率  | 握力    | 腹筋力   | 背筋力   |
| 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   |

△個人判定票  
帳票はすべて、扱いやすいA4サイズです。

学体連支援企業  
**学研**(株)学習研究社 教科図書事業部

〒146-8502 東京都大田区仲池上1-17-15 TEL 03-3726-8134 FAX 03-3726-8148

## 美味 満足 元気



野菜100%

朝の一缶  
飲むサラダ

低カロリー・食塩無添加

1缶/160g 250円(税別)  
30缶入1ケース・全国配送

ミリオンの緑黄色野菜ジュース

ミリオン株式会社

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-12-5

TEL 048-641-2291 FAX 048-641-4011  
URL <http://www.millionpower.co.jp>

## (財)日本ハンドボール協会では ハンドボールの実践研究推進校を募集しています。

### 1 趣旨

小学校における教材としてのハンドボールの課題について、総合的に実践研究を行い、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

### 2 研究実践期間

おおむね2年間とする。

### 3 対象推進校

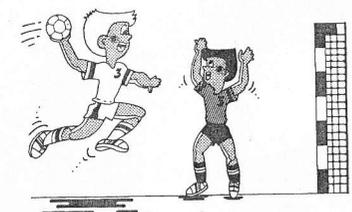
各都道府県協会より推薦された小学校の中から20校程度選定する。選定は(財)日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会で行う。

### 4 経費

日本協会は、研究委託費として、予算の範囲内で支出委任する。

### 5 申し込み及び問い合わせ先

応募の際には、以下にお問い合わせください。



FF HANDBALL

(財)日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会(代表 佐藤 靖)

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部 スポーツ・健康教育講座 佐藤研究室

Tel&Fax 018-889-2577

我々は(財)日本学校体育研究連合会の特別賛助会員です  
我々はスクールシューズの専門のメーカーと販売店の団体です

『我々は訴え続けています』

1. 児童、生徒の成長と健康はシューズから
2. 足の健康と発育を考えているシューズです
3. 毎日、研究 開発に携わっています

特別賛助会員 『学校体育シューズ研究会』

協和株式会社 (メーカー)  
株式会社 アスティコ (メーカー)  
連絡先 Tel 078-611-4376 (事務局)

FAX 078-611-4378

## できる学習クラブ 体育

小学校3～6年生向け体育教育専用ソフト

★これからの体育教育はコンピュータ活用で!

★実技を見て、「マイプラン」を立て、  
『めあて』に沿った学習を展開!

(財)日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

NECインターチャネル株式会社  
TEL:03-5440-0733  
東京都港区三田1-4-28(三田国際ビル)

- 「器械運動」、「表現運動」、「体づくり」、「保健」を収録。
- 体育の事前学習に最適な内容。
- 『めあて』に沿って単元の学習計画を子どもが組み立てる構成。
- 【指導用】には「指導案集」「練習カード集」を添付。



表現運動5.6年

NEC

動作環境

Windows 95/98  
/Me/NT/2000/XP

価格(税別)

【指導用】	14,500円
【児童用】	9,500円
【スクールパック11本セット】	109,500円
【スクールパック22本セット】	214,000円
【スクールパック42本セット】	404,000円

## キンボール

KIN-BALL  
042521

「共遊」「主体」「創造」を構築する  
ニュースポーツ…それが、キンボール

「共遊」……1チーム4名ですが12名まで登録できるので12×3チームの最大36名が同時に共遊できます。

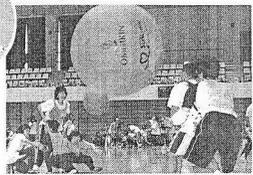
「主体」……ヒットの時は、相手チームカラーの指定に声を出さなければなりません。誰もが主役になりながら、個々の技量、体格差は問いません。

「創造」……リードアップゲームは、競技型ゲームより独立し、参加者も自由に創意工夫し、互いに学び合うゲームです。



KIN-X  
キンボール・コンバセット  
¥120,000  
キンボール1(カバート、インナーボール1)、  
ゼンクワ1(12枚セット)、スコアボード1、  
キンボール専用電動フロウ1、ビデオ、  
ルール・バック付

1チーム4名、3チームでプレーするユニークなスポーツで、直径122cm、約1kgのビッグなボールを使って「ヒット」「レシーブ」を繰り返して得点を競います。



SunLucky 株式会社 サンラッキー

本社 / 〒537-0012 大阪市東成区大今里 3-12-23  
TEL.06-6981-4626(代) FAX.06-6981-6740

●お客様窓口 ☎0120-81-4670

平日は9:30～17:00 土・日・祝日は休み  
http://www.newsports-21.com/sunlucky/  
E-mail:sunlucky@newsports-21.com

JTB For Your Travel & Life  
世界をつなぐ旅と心

世界が、  
あなたを待っている。



憧れあの国、あの街へ……、  
あなたらしきで選ぶ旅、「ルックJTB」。

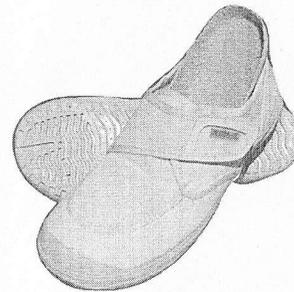
LOOK JTB

成長期の正しい足の発育促進に大きな効果を発揮する  
画期的な21世紀のシューズ!

推薦 (財)日本学校体育研究連合会  
全国小学校体育研究連盟

教育シューズ  
フレッシュ21

教育バレー®DX



特徴

- 1 足指ゆつたり、自然な歩行を助ける靴型設計。
- 2 カップインソール式の中敷を採用
- 3 衝撃吸収スポンジ採用で着地時の衝撃を緩和。
- 4 0.5cmきざみのサイズ展開

(財)日本学校体育研究連合会特別賛助会員

日進ゴム株式会社

〒700-0034 岡山市高柳東町13-46  
TEL (086) 252-2456 FAX (086) 254-8595

教育シューズ 教育バレー。は、日進ゴム(株)の登録商標です。

足もとの健康づくりと体力づくりに

## 教育シューズ®

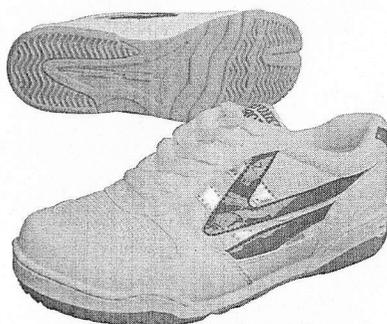
運動性能に加え耐久性・安定性、そして  
快適性を一段とアップした体育館シューズ

### 教育シューズ® 7000

- カラー:青・赤・緑・黄・白
- サイズ:21.0~28.0・29.0・30.0・31.0

### 教育シューズ® 8000

- カラー:青・赤・緑・黄
- サイズ:21.0~28.0・29.0・30.0・31.0



※教育7000・教育8000のアウトソールはトーマスヒール理論を採用した独特のパターン。  
着地時や直立時の安定感を高め、土踏まずの形成扁平足の矯正に役立ちます。

財団法人 日本学校体育研究連合会特別賛助会員

教育シューズ振興会

本部事業部 〒700-0034 岡山市高柳東町13番46号 日進ゴム(株)内  
TEL(086)252-4381 FAX(086)254-8595

会長 渡邊 昌平

理事長 森本 俊宏